

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウホクガクイン 学校法人 東北学院							
フリガナ大学の名称	トウホクガクインダイガク 東北学院大学 (Tohoku Gakuin University)							
大学本部の位置	宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号							
大学の目的	キリスト教による人格教育を基礎として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって世界文化の創造と人類の福祉に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	人間生活の抱える種々の問題に現実的に対処すべく、人間を多角的・実証的に捉える力を備え、健康的な生のあり方を追求する人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間科学部 [Faculty of Human Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
	心理行動科学科 [Department of Psychology and Behavioral Sciences]	4	165	-	660	学士 (人間科学) 【Bachelor of Human Sciences】	令和5年4月 第1年次	
	計		165	-	660			

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	○学部の設置 地域総合学部 (令和4年6月届出予定) 地域コミュニティ学科 (150) 政策デザイン学科 (145) 情報学部 データサイエンス学科 (190) (令和4年6月届出予定) 国際学部 国際教養学科 (130) (令和4年6月届出予定) ○学生募集停止 経済学部 共生社会経済学科 (廃止) (△187) (2年次編入学定員) (△4) (3年次編入学定員) (△3) 工学部 情報基盤工学科 (廃止) (△110) (3年次編入学定員) (△5) 教養学部 (廃止) 人間科学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) 言語文化学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) 情報科学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) 地域構想学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) ※令和5年4月学生募集停止 (2年次編入学定員は令和6年4月学生募集停止) (3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止) ○入学定員の変更 文学部 英文学科 [定員減] (△30) (令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△9) (令和7年4月) 総合人文学科 [定員増] (10) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△1) (令和7年4月) 歴史学科 (2年次編入学定員) [定員減] (△2) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△2) (令和7年4月) 教育学科 [定員増] (20) (令和5年4月) 経済学部 経済学科 [定員減] (△10) (令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△9) (令和7年4月) 経営学部 経営学科 (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 法学部 法律学科 [定員減] (△3) (令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△4) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 工学部 機械知能工学科 [定員増] (5) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 電気電子工学科 [定員増] (20) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 環境建設工学科 [定員増] (5) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△5) (令和7年4月)					
	教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数			
		講義	演習	実験・実習	計	
	人間科学部 心理行動科学科	159 科目	12 科目	16 科目	187 科目	124単位

教 員 組 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等			
			教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新	設	分	既	設	分	合 計	職 種	専 任	兼 任	計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
教 員 組 の 概 要	人間科学部	心理行動科学科	10 (10)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	114 (114)	令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定)	
	地域総合学部	地域コミュニティ学科	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	112 (112)		
		政策デザイン学科	7 (7)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	115 (115)		
	情報学部	データサイエンス学科	11 (11)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	93 (93)		
	国際学部	国際教養学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	99 (99)		
		計	45 (45)	32 (32)	7 (7)	0 (0)	84 (84)	0 (0)	- (-)		
		文学部	英文学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	235 (235)	
			総合人文学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	227 (227)	
			歴史学科	13 (13)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	237 (237)	
			教育学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	163 (163)	
		経済学部	経済学科	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	235 (235)	
		経営学部	経営学科	12 (12)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	212 (212)	
		法学部	法律学科	19 (19)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	215 (215)	
		工学部	機械知能工学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	93 (93)	
			電気電子工学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	97 (97)	
			環境建設工学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	112 (112)	
			教養教育センター	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
			ラーニング・コモンズ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
			宗教音楽研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
			英語教育センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		計	121 (121)	49 (49)	16 (16)	6 (6)	192 (192)	0 (0)	- (-)		
		合 計	166 (166)	81 (81)	23 (23)	6 (6)	276 (276)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任			兼 任		計			
			人			人		人			
	事 務 職 員		158 (158)			112 (142)		270 (300)		他図書館委託スタッフ39人	
	技 術 職 員		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)			3 (3)		13 (13)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)		0 (0)				
		計	168 (168)			115 (145)		283 (313)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	167,415.30 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	167,415.30 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	59,142.06 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	59,142.06 m <sup>2</sup>					
	小 計	226,557.36 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	226,557.36 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	126,097.07 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	126,097.07 m <sup>2</sup>					
合 計	352,654.43 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	352,654.43 m <sup>2</sup>						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		150,453.56 m <sup>2</sup> ( 150,453.56 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	150,453.56 m <sup>2</sup> ( 150,453.56 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	99室	40室	186室	11室 (補助職員8人)	12室 (補助職員4人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		人間科学部 心理行動科学科		17 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	[大学全体での共用分] (図書) 1,115,071冊 (雑誌) 14,536種 (電子ジャーナル) 4,205点 (視聴覚資料) 16,611点  機械・器具、標本は 学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数		
	人間科学部 心理行 動科学科	70,676 [19,014] (70,676 [19,014])	29,804 [29,599] (29,804 [29,599])	29,477 [29,417] (29,477 [29,417])	40 (40)	3,017 (3,017)	84 (84)			
	計	70,676 [19,014] (70,676 [19,014])	29,804 [29,599] (29,804 [29,599])	29,477 [29,417] (29,477 [29,417])	40 (40)	3,017 (3,017)	84 (84)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		17,571.54 m <sup>2</sup>		1,146	1,522,222					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		9,197.65 m <sup>2</sup>		野球場2面、サッカー場1面、ラグビー場1面、トラック1面ほか						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には 電子ジャーナル・ データベースの整備 費(運用コスト費を 含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		1,613千円	1,613千円	1,613千円	1,613千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		442千円	442千円	442千円	442千円	－千円	－千円	
		図 書 購 入 費	0千円	14,117千円	14,117千円	14,117千円	14,117千円	－千円	－千円	
	設 備 購 入 費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,414千円	1,144千円	1,144千円	1,144千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、私立大学経常費補助金及び資産運用収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	東北学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
		年	人	年次人	人					
	文学部 英文学科	4	180	2年次 6 3年次 12	762	学士(文学)	1.02 1.01	昭和39年度		
	総合人文学科	4	50	3年次 2	204	学士(文学)	1.04	平成23年度		
	歴史学科	4	170	2年次 2 3年次 3	692	学士(文学)	1.02	平成17年度		
	教育学科	4	50	—	200	学士(教育学)	1.05	平成30年度		
	経済学部 経済学科	4	440	2年次 6 3年次 9	1,796	学士(経済学)	1.02 1.01	昭和39年度		【文、経済、経営、法学部】 (1・2年次) 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
	共生社会経済学科	4	187	2年次 4 3年次 3	766	学士(経済学)	1.04	平成21年度		(3・4年次) 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
	経営学部 経営学科	4	341	2年次 6 3年次 8	1,398	学士(経営学)	1.02 1.02	平成21年度		
	法学部 法律学科	4	358	2年次 4 3年次 6	1,456	学士(法学)	1.02 1.02	昭和40年度		
	工学部 機械知能工学科	4	110	3年次 6	452	学士(工学)	1.03 1.03	平成18年度		
	電気電子工学科	4	110	3年次 6	452	学士(工学)	1.02	平成29年度		
	電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度	【工学部】 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号	平成29年度より学生募集停止(電子工学科)
	環境建設工学科	4	110	3年次 5	450	学士(工学)	1.03	平成18年度		
	情報基盤工学科	4	110	3年次 5	450	学士(工学)	1.01	平成29年度		

既設大学等の状況	大学の名称	東北学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
	教養学部 人間科学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02 1.01	平成17年度	【教養学部】 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号	
	言語文化学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02	平成17年度		
	情報科学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02	平成17年度		
	地域構想学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.03	平成17年度		

	大学の名称	東北学院大学大学院									
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員超 過率	開設年度	所在地	備考	
既 設 大 学 等 の 状 況	文学研究科	年	人	年次 人	人						
	英語英文学専攻（博士前期課程）	2	10	-	20	修士(文学)	0.10	昭和39年度	【文、経済、経 営、法学研究科】 宮城県仙台市青葉 区土樋一丁目3番1 号		
	英語英文学専攻（博士後期課程）	3	3	-	9	博士(文学)	0.00	昭和41年度			
	ヨーロッパ文化史専攻（博士前期課程）	2	5	-	10	修士(文学)	0.30	平成9年度			
	ヨーロッパ文化史専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(文学)	0.16	平成11年度			
	アジア文化史専攻（博士前期課程）	2	5	-	10	修士(文学)	0.40	平成9年度			
	アジア文化史専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(文学)	0.50	平成11年度			
	経済学研究科										
	経済学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(経済学)	0.12	昭和42年度			
	経済学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(経済学又は商学)	0.33	昭和43年度			
	経営学研究科										
	経営学専攻（修士課程）	2	8	-	16	修士(経営学)	1.06	平成21年度			
	法学研究科										
	法学専攻（博士前期課程）	2	10	-	20	修士(法学)	0.40	昭和50年度			
	法学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(法学)	0.00	昭和54年度			
	工学研究科										
	機械工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.68	昭和46年度	【工学研究科】 宮城県多賀城市中 央一丁目13番1号		
	機械工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	昭和49年度			
	電気工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.18	昭和46年度			
	電気工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.50	昭和49年度			
電子工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.31	平成22年度				
電子工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	平成24年度				
環境建設工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	0.81	平成22年度				
環境建設工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	平成22年度				
人間情報学研究科											
人間情報学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(学術)	0.56	平成6年度	【人間情報学研究 科】			
人間情報学専攻（博士後期課程）	3	3	-	9	博士(学術)	0.00	平成8年度	宮城県仙台市泉区 天神沢二丁目1番1 号			
附属施設の概要	該当なし										

教育課程等の概要															
(人間科学部心理行動科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
T G ベーシック	人間的基礎	聖書を学ぶ	1前	2		○									兼1
		キリスト教の歴史と思想	1後	2		○									兼1
		キリスト教学A	3前・後		2		○								兼1
		キリスト教学B	3前・後		2		○								兼1
		キリスト教学C	3前・後		2		○								兼1
		キリスト教学D	3前・後		2		○								兼1
		共生社会と倫理	2前・後		2		○								兼3
		科学技術社会と倫理	2前・後		2		○								兼3
		よき社会生活のためにA (法律)	1前・後		2		○								兼1
	よき社会生活のためにB (福祉)	1前・後		2		○					2			兼1	
	よき社会生活のためにC (健康)	1前・後		2		○								兼1	
	知的基礎	リーディング&ライティング	1前・後		2		○								兼1
		クリティカル・シンキング	1前・後		2		○								兼1
		情報リテラシー	1前・後	2			○				1				兼1
		統計的思考の基礎	1前・後		2		○								兼6
		科学的思考の基礎	1前・後		2		○								兼6
	課題探究	キャリア形成の探究	1前		2		○								兼1
		東北学院史の探究	3前・後		2		○								兼1
		データ活用による探究	2前・後		2		○								兼2
		地域ボランティア活動の探究	1前・後		2		○								兼1
		地域課題の探究	2前・後		2		○								兼1
		課題探究演習	1後		2			○							兼2
	人文系	哲学	1前・後		2		○								兼1
		芸術論	1前・後		2		○								兼1
		文化の歴史	1前・後		2		○								兼1
		音楽	1前・後		2		○								兼1
		倫理学	1前・後		2		○								兼1
文学		1前・後		2		○								兼1	
歴史学		1前・後		2		○								兼1	
文化人類学		1前・後		2		○								兼1	
言語論		1前・後		2		○								兼1	
社会系		社会学	1前・後		2		○								兼4
		経営学	1前・後		2		○								兼2
		経済学	1前・後		2		○								兼4
		法学	1前・後		2		○								兼1
		日本国憲法	1前・後		2		○								兼1
	現代の政治	1前・後		2		○								兼1	
	地理学	1前・後		2		○								兼3	
	社会福祉論	1前・後		2		○								兼4	
	ジェンダー論	1前・後		2		○								兼1	
	東北地域論	1前・後		2		○								兼3	
自然系	数理の科学	1前・後		2		○								兼6	
	記号論理学	1前・後		2		○								兼1	
	生命の科学	1前・後		2		○								兼2	
	環境の科学	1前・後		2		○								兼2	
	自然の科学	1前・後		2		○								兼1	
	先端科学と技術	1前・後		2		○								兼3	
	AI社会の基礎	1前・後		2		○								兼4	
小計 (48科目)		—	6	90	0		—			1	2	0	0	0	兼70



教育課程等の概要														
(人間科学部心理行動科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
第1類	英語ⅠA	1前	1			○								兼1
	英語ⅠB	1後	1			○								兼1
	英語ⅡA	2前	1			○								兼1
	英語ⅡB	2後	1			○								兼1
外国語科目 第2類	ドイツ語ⅠA	1前		2		○								兼1
	フランス語ⅠA	1前		2		○								兼2
	中国語ⅠA	1前		2		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅠA	1前		2		○								兼1
	ドイツ語ⅠB	1後		2		○								兼1
	フランス語ⅠB	1後		2		○								兼2
	中国語ⅠB	1後		2		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅠB	1後		2		○								兼1
	ドイツ語ⅡA	2前		1		○								兼1
	フランス語ⅡA	2前		1		○								兼2
	中国語ⅡA	2前		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅡA	2前		1		○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	フランス語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	中国語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	ドイツ語ⅡB	2後		1		○								兼1
	フランス語ⅡB	2後		1		○								兼2
	中国語ⅡB	2後		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅡB	2後		1		○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	フランス語コミュニケーションB	2後		1		○								兼2
	中国語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
ドイツ語ⅢA	3前		1		○								兼1	
フランス語ⅢA	3前		1		○								兼2	
中国語ⅢA	3前		1		○								兼1	
韓国・朝鮮語ⅢA	3前		1		○								兼1	
ドイツ語ⅢB	3後		1		○								兼1	
フランス語ⅢB	3後		1		○								兼2	
中国語ⅢB	3後		1		○								兼1	
韓国・朝鮮語ⅢB	3後		1		○								兼1	
第3類	ベーシック英語	1前			1	○								兼1
	英語コミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	英語ⅢA	3前		1		○								兼1
	英語ⅢB	3後		1		○								兼1
	小計(40科目)	—	4	44	1		—			0	0	0	0	0
保健体育	スポーツ実技A	1前・後		1				○						兼1
	スポーツ実技B	1前・後		1				○						兼1
	体育講義	1前・後		2		○								兼1
	小計(3科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2
留学科目	海外研究A	2通		4		○								兼1 集中
	海外研究B	1後		2		○								兼1 集中
	海外研究C	1後		1		○								兼1 集中
	小計(3科目)	—	0	7	0		—		0	0	0	0	0	兼1

教育課程等の概要															
(人間科学部心理行動科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
帰外国生人科及び目	日本語ⅠA	1前		1		○								兼1	
	日本語ⅠB	1後		1		○								兼1	
	日本語ⅡA	2前		1		○								兼1	
	日本語ⅡB	2後		1		○								兼1	
	小計(4科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
専門科目	心理学概論	1前	2			○			1						
	臨床心理学概論	1後	2			○				1					
	社会学概論	1前	2			○			1						
	社会調査基礎論	1後	2			○			1						
	健康と身体活動の基礎A	1前	2			○			2	1				オムニバス	
	健康と身体活動の基礎B	1後	2			○			1	2				オムニバス	
	研究方法科目	基礎統計学	1前		2		○			1					
		心理学研究法	2前		2		○			2					オムニバス・共同(一部)
		心理学統計法	2後		2		○			2					オムニバス
		社会調査法	2前		2		○			1					
		社会統計学	2前		2		○			1					
		多変量解析	2後		2		○			1					
		運動学研究法	2前		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
		運動学統計法	2後		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
	実験・実習科目	心理学実験	2前		2				○	2	1				
		心理的アセスメント	2後		2				○	3					オムニバス・共同
		社会調査実習A	2前		2				○	2					オムニバス・共同
		社会調査実習B	2後		2				○	2					
		運動学実験実習A	2前		2				○	1	2				共同
		運動学実験実習B	2後		2				○	1	2				共同
	演習科目	基礎演習A	1前	2					○	6	3				
		基礎演習B	1後	2					○	4	3	1			※実験・実習
		演習A	3前	2					○	10	6	1			
		演習B	3後	2					○	10	6	1			
		特殊研究	3後		2				○	5	3	1			
		文献講読A	3前		2				○		1				
		文献講読B	3後		2				○		1				
卒業研究A		4前	2					○	10	6	1				
卒業研究B		4後	2					○	10	6	1				
臨床	障害者・障害児心理学	3前	2			○			1					兼1	
	人体の構造と機能及び疾病	2前	2			○								集中	
	健康・医療心理学	3前		2		○				1					
	福祉心理学	3前		2		○								兼1	
	精神疾患とその治療	3前		2		○								兼1	
	衛生公衆衛生学	3後	2			○			1					オムニバス・共同(一部)	
	学校保健Ⅰ	2前	2			○				1				オムニバス・共同(一部)	
	学校保健Ⅱ	3前	2			○				1				オムニバス・共同(一部)	
	学校安全及び緊急処置	3後		2		○								兼1	
	心理学的支援法	2後		2		○				1					
心理行動科学特殊講義A	3後		2		○				1				兼1		

教育課程等の概要															
(人間科学部心理行動科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	個人	知覚・認知心理学	2前	2		○			2						兼1 集中 オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部)
		学習・言語心理学	2前	2		○				1					
		感情・人格心理学	2後	2		○					1				
		神経・生理心理学	3後	2		○									
		発達心理学	2前	2		○			1						
		意思決定の科学	3後	2		○				1					
		スポーツ心理学Ⅰ	1前	2		○			2						
		スポーツ心理学Ⅱ	2前	2		○			2						
		スポーツ生理学	1前	2		○			2						
		運動方法学	1後	2		○				1					
	心理行動科学特殊講義B	3後	2		○			1						兼1 オムニバス	
	社会	社会・集団・家族心理学	2前	2			○			1					兼1 兼1 兼1 オムニバス・共同(一部)
		教育・学校心理学	2前	2			○			2					
		ジェンダーの社会学	2前	2			○			1					
		現代社会と心理	2後	2			○			1					
		産業・組織心理学	2前	2		○					1				
		司法・犯罪心理学	3前	2		○									
		関係行政論	2後	2		○									
		スポーツ社会学	1後	2		○									
		スポーツマネジメント	2後	2		○					1				
不平等の社会学		3後	2		○			1							
家族社会学	3後	2		○			1								
心理行動科学特殊講義C	3後	2		○			1						兼13		
小計(63科目)	—	44	82	0	—	—	—	10	6	1	0	0	兼13	—	
免許および資格関係科目	公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	1後	2		○				2	1			オムニバス オムニバス 共同	
		心理演習	3前	2			○		1	2	1				
		心理実習	3通	2				○	1	2	1				
		小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	1	2	1	0	0		0
	教員免許状の教科に関する科目	体育実技Ⅰ(陸上競技・水泳)	2前		1										兼2 兼1 兼2 兼2 オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同(一部) オムニバス
		体育実技Ⅱ(体づくり運動・器械運動・ダンス)	2後		1				1	1					
		体育実技Ⅲ(武道)	3前		1										
		体育実技Ⅳ(球技)	3後		1				1						
小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	2	1	0	0	0	兼7	—		

教育課程等の概要															
(人間科学部心理行動科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
免許および資格関係科目	教職等に関する科目	教育基礎論	1前	2		○									兼1
		現代教職論	1前・後	2		○									兼1
		教育の制度と経営	1後	2		○									兼1
		特別支援教育論	3前・後	2		○			1						
		教育課程論	2前	2		○									兼1
		道徳教育の理論と方法	2前・後	2		○									兼1
		特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	3前・後	2		○									兼2 オムニバス
		教育の方法と技術	2前・後	2		○									兼1
		ICT活用の理論と方法	3前・後	2		○									兼1
		生徒指導・進路指導の理論と方法	2前・後	2		○									兼2 オムニバス
		教育相談の理論と方法	2前・後	2		○									兼1
		保健体育科教育法(概論)	2前	2		○				1					
		保健体育科教育法(理論)	2後	2		○				1					
		保健体育科教育法(実践)	3前	2		○									兼1
		保健体育科教育法(応用)	3後	2		○									兼1
		教育実習Ⅰ	4通	3					○	1					
		教育実習Ⅱ	4通	2					○	1					
教職実践演習(中・高)	4後	2				○		1					兼7		
介護体験実習	3通	2					○	1							
小計(19科目)		—	0	39	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼10	—
合計(187科目)		—	54	280	1	—	—	10	6	1	0	0	0	兼114	—
学位又は称号		学士(人間科学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>教養教育科目から34単位、外国語科目から6単位、専門科目から72単位、その他選択科目から12単位以上を修得し、124単位以上修得すること。</p> <p>なお、教養教育科目の選択科目のうち、TGベーシック区分の「キリスト教学A」、「キリスト教学B」、「キリスト教学C」、「キリスト教学D」から2単位選択必修、「共生社会と倫理」、「科学技術社会と倫理」から2単位選択必修、「よき社会生活のためにA(法律)」、「よき社会生活のためにB(福祉)」、「よき社会生活のためにC(健康)」から2単位選択必修、「リーディング&amp;ライティング」、「クリティカル・シンキング」から2単位選択必修、「統計的思考の基礎」、「科学的思考の基礎」から2単位選択必修、課題探究区分から6単位選択必修、共通教養科目区分の人文系区分から4単位選択必修、社会系区分から4単位選択必修、自然系区分から4単位選択必修とする。</p> <p>また、外国語科目の選択科目のうち、「ドイツ語ⅠA」、「フランス語ⅠA」、「中国語ⅠA」、「韓国・朝鮮語ⅠA」、「ドイツ語ⅠB」、「フランス語ⅠB」、「中国語ⅠB」、「韓国・朝鮮語ⅠB」から2単位選択必修とする。</p> <p>さらに、専門科目の選択科目のうち、個人区分の「知覚・認知心理学」及び「学習・言語心理学」から2単位選択必修とする。</p> <p>【履修登録上の制限】</p> <p>1年間に履修登録できる単位数の上限は、第1学年次から第3学年次を40単位とし、第4学年次を46単位とする。ただし、資格科目については上限を超えて履修することができる。</p>							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要																
(教養学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	T G ベーシック	人間的基礎	聖書を学ぶ	1前	2		○								兼1	
			キリスト教の歴史と思想	1後	2		○								兼1	
			キリスト教学A (キリスト教と倫理)	3前・後	2		○								兼1	
			キリスト教学B (キリスト教と宗教)	3前・後	2		○								兼1	
			キリスト教学C (キリスト教と文化)	3前・後	2		○								兼1	
			キリスト教学D (キリスト教と現代社会)	3前・後	2		○								兼1	
			市民社会を生きる	1前・後	2		○								兼8	
			地球社会を生きる	2前・後	2		○								兼7	
			科学技術社会を生きる	2前・後	2		○								兼4	
	キャリア形成と大学生活	1前・後	2		○								兼3			
	知的基礎	クリティカル・シンキング	3前・後	2		○								兼1		
		教理的思考の基礎	1前・後	2		○				5				兼6		
		統計的思考の基礎	1前・後	2		○								兼3		
		科学的思考の基礎	2前・後	2		○								兼9		
		情報化社会の基礎	1前・後	2		○								兼6		
		メディア・リテラシー	2前・後	2		○					2			兼4		
		読解・作文の技法	1前・後	2		○								兼4		
		研究・発表の技法	2前・後	2		○					1			兼2		
	学科教養科目	人文系	哲学入門	1前・後	2		○								兼4	
			芸術論	1前・後	2		○								兼4	
			音楽	1前・後	2		○								兼2	
			歴史学	1前・後	2		○								兼8	
			文学	1前・後	2		○								兼5	
			倫理学入門	2前・後	2		○								兼2	
		社会系	心理学	1前・後	2		○				5	1				兼1
			社会学	1前・後	2		○				2	2				兼4
			経済学入門	1前・後	2		○									兼3
			法学基礎	1前・後	2		○									兼3
			地理学	1前・後	2		○									兼5
			日本国憲法	2前・後	2		○									兼3
			現代政治論	2前・後	2		○									兼3
			社会福祉論	2前・後	2		○									兼1
		東北地域論	2前・後	2		○									兼5	
	自然系	環境の科学	1前・後	2		○									兼5	
		自然の科学	1前・後	2		○									兼4	
		生命の科学	1前・後	2		○									兼2	
		健康の科学	2前・後	2		○				3	3				兼2	
		先端の科学と技術	2前・後	2		○									兼4	
	東北学院の歴史	東北学院の歴史	3前・後	2		○									兼1	
小計 (39科目)		—	4	74	0	—	—	—	10	5	0	0	0	兼110		
地域教育科目	震災と復興	1前・後	2		○									兼1		
	地域の課題Ⅰ	2前	2		○									兼4		
	地域の課題Ⅱ	2後	2		○									兼4		
	地域課題演習	3通	4				○							兼2		
	小計 (4科目)	—	2	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4		

教育課程等の概要														
(教養学部人間科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語科目	第1類	英語ⅠA	1前	1		○								兼13
		英語ⅠB	1後	1		○								兼13
		英語ⅡA	2前	1		○								兼13
		英語ⅡB	2後	1		○								兼13
		英語コミュニケーションⅠA	1前		1	○								兼3
		英語コミュニケーションⅠB	1後		1	○								兼3
		英語コミュニケーションⅡA	2前		1	○								兼1
		英語コミュニケーションⅡB	2後		1	○								兼1
		ドイツ語Ⅰ(週1)A	1前		1	○								兼2
		ドイツ語Ⅰ(週1)B	1後		1	○								兼2
		フランス語Ⅰ(週1)A	1前		1	○								兼1
		フランス語Ⅰ(週1)B	1後		1	○								兼1
		中国語Ⅰ(週1)A	1前		1	○								兼3
		中国語Ⅰ(週1)B	1後		1	○								兼3
		韓国・朝鮮語Ⅰ(週1)A	1前		1	○								兼1
		韓国・朝鮮語Ⅰ(週1)B	1後		1	○								兼1
		ドイツ語Ⅰ(週2)A	1前		2	○								兼2
		ドイツ語Ⅰ(週2)B	1後		2	○								兼2
		フランス語Ⅰ(週2)A	1前		2	○								兼2
		フランス語Ⅰ(週2)B	1後		2	○								兼2
		中国語Ⅰ(週2)A	1前		2	○								兼1
		中国語Ⅰ(週2)B	1後		2	○								兼1
		韓国・朝鮮語Ⅰ(週2)A	1前		2	○								兼1
		韓国・朝鮮語Ⅰ(週2)B	1後		2	○								兼1
		ドイツ語コミュニケーションⅠA	1前		1	○								兼2
		ドイツ語コミュニケーションⅠB	1後		1	○								兼2
		フランス語コミュニケーションⅠA	1前		1	○								兼2
		フランス語コミュニケーションⅠB	1後		1	○								兼2
		中国語コミュニケーションⅠA	1前		1	○								兼1
		中国語コミュニケーションⅠB	1後		1	○								兼1
		韓国・朝鮮語コミュニケーションⅠA	1前		1	○								兼1
		韓国・朝鮮語コミュニケーションⅠB	1後		1	○								兼1
		ドイツ語ⅡA	2前		1	○								兼1
	ドイツ語ⅡB	2後		1	○								兼1	
	フランス語ⅡA	2前		1	○								兼1	
	フランス語ⅡB	2後		1	○								兼1	
	中国語ⅡA	2前		1	○								兼1	
	中国語ⅡB	2後		1	○								兼1	
	韓国・朝鮮語ⅡA	2前		1	○								兼1	
	韓国・朝鮮語ⅡB	2後		1	○								兼1	
	第3類	ベーシック英語	1前			○								兼1
		英語Ⅲ	3前・後			○								兼3
		小計(42科目)	—	4	44	2	—	—	—	—	—	—	—	兼46
育保科 健目体	体育講義	1前・後		2		○				2	1			
	スポーツ実技	1通		2				○		4	1			兼8
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	—	4	1	0	0	0

教育課程等の概要															
(教養学部人間科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国人留学生科目	第1類	日本事情A	1前・後	2		○								兼1	
		日本事情B	1前・後	2		○								兼1	
		日本事情C	1前・後	2		○			1						
	第2類	日本語I A	1前		1		○							兼1	
		日本語I B	1後		1		○							兼1	
		日本語II A	2前		1		○							兼1	
		日本語II B	2後		1		○							兼1	
小計(7科目)		—	0	10	0	—			1	0	0	0	0	兼4	—
学部共通科目	基礎コンピュータ	1前		2		○			1	1					
	基礎統計学	1前		2		○								兼1	
	応用統計学	1後		2		○								兼1	
	文化人類学	1前・後		2		○								兼1	
	キャリアデザイン	2前・後		2		○			1					兼1 オムニバス・共同(一部)	
	思想の歴史	2前・後		2		○								兼1	
	芸術の歴史	2前・後		2		○								兼1	
	宗教と人間	2前・後		2		○								兼2 オムニバス・共同(一部)	
	社会調査法	2前・後		2		○				1					
	ボランティア活動	2前・後		2		※		○	1					兼7 ※講義 オムニバス・共同(一部)	
	現代社会の諸問題	3前・後		2		○			1					兼4	
	ジェンダー論	3前・後		2		○			1					兼4	
	海外研究I	2前・後		2		○								兼1 集中	
	海外研究II	2前・後		2		○		※						兼1 集中※実習	
	人間科学演習A	3前		1				○	12	8					
	人間科学演習B	3後		1				○	12	8					
	言語文化学演習A	3前		1				○						兼14	
	言語文化学演習B	3後		1				○						兼14	
	情報科学演習A	3前		1				○						兼14	
	情報科学演習B	3後		1				○						兼14	
	地域構想学演習A	3前		1				○						兼15	
	地域構想学演習B	3後		1				○						兼15	
	総合研究(卒業課題)A	4前	2					○	12	9				兼58	
	総合研究(卒業課題)B	4後	2					○	12	8				兼59	
小計(24科目)		—	4	36	0	—			13	9	0	0	0	兼68	—
学科専門科目	基礎科目	社会学基礎論A	1前	2		○			1						
		社会学基礎論B	1後	2		○			1						
		心理学基礎論A(心理学概論)	1前	2		○			1						
		心理学基礎論B(臨床心理学概論)	1後	2		○				1					
		教育学基礎論A	1前	2		○				2					
		教育学基礎論B	1後	2		○			2					オムニバス	
		体育学基礎論A	1前	2		○			4	2				オムニバス・共同(一部)	
		体育学基礎論B	1後	2		○			1					オムニバス	
		人間科学基礎論	2前・後	2		○			2	2				オムニバス・共同(一部)	

教育課程等の概要														
(教養学部人間科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究方法科目	人間科学基礎演習A	1前	1				○		4	4				
	人間科学基礎演習B	1後	1				○		4	4				
	文献講読A	2前		1		○				2				
	文献講読B	2後		1		○			1	1				
	社会統計学A	2前		2		○			1					
	社会統計学B	2後		2		○			1					
	社会調査実習A	2前		2				○	1	1				オムニバス
	社会調査実習B	2後		2				○	1	1				オムニバス
	多変量データ分析実習	3前・後		1				○	1					
	心理学研究法A(心理学研究法)	2前		2		○			2					オムニバス・共同(一部)
	心理学研究法B(心理学統計法)	2後		2		○			2					オムニバス
	心理学実験実習A(心理学実験)	2前		2				○	2	1				オムニバス
	心理学実験実習B(心理的アセスメント)	2後		2				○	3					オムニバス
	教育調査実習A	3前		2				○	1					
	教育調査実習B	3後		2				○	1					
	体育実験実習A	2前		2				○	1	1				オムニバス
	体育実験実習B	2後		2				○	1	1				オムニバス
	体育調査実習	3前・後		2				○	1	1				オムニバス・共同(一部)
	学科専門科目	組織社会学	2前・後		2		○				1			
不平等の社会学		2前・後		2		○			1					
現代家族論		2前・後		2		○			1					
人間形成の社会学		3前・後		2		○								兼1
情報社会論		3前・後		2		○				1				
神経・生理心理学		3前・後		2		○								兼1
発達心理学		2前・後		2		○			1					
知覚・認知心理学		2前・後		2		○			1					
学習・言語心理学		2前・後		2		○				1				
社会・集団・家族心理学		2前・後		2		○			1					
教育・学校心理学		2前・後		2		○			2					
感情・人格心理学		3前・後		2		○			1					
産業・組織心理学		3前・後		2		○			1					
健康・医療心理学		3前・後		2		○				1				
臨床心理学(心理学的支援法)		3前・後		2		○				1				
生涯学習論		2前・後		2		○			1					
教育コミュニケーション論		2前・後		2		○			1					
教育と社会		2前・後		2		○				1				
学習の科学		3前・後		2		○				1				
発達と教育		3前・後		2		○			1					
市民性育成の教育論		3前・後		2		○				1				
スポーツ健康増進論		2前・後		2		○				1				
体力科学		2前・後		2		○				1				
スポーツ文化論		3前・後		2		○			1					
スポーツと発達		3前・後		2		○			1					
人間の心と身体		2前・後		2		○			1					
哲学的人間学		3前・後		2		○								兼1



教育課程等の概要																		
(教養学部人間科学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学科専門科目	専門関連科目	日本史概説	1前・後	2		○									兼2	オムニバス		
		外国史概説	1前・後	2		○									兼1			
		地理学概説	1前・後	2		○									兼1			
		地誌学概説	1前・後	2		○									兼1			
		歴史の中の東北	2前・後	2		○									兼2			
		江戸から明治へ	2前・後	2		○									兼1			
		イスラーム世界の形成と展開	2前・後	2		○									兼2			
		現代の文化人類学	2前・後	2		○									兼1			
		民俗学概説Ⅰ	1前	2		○									兼1			
		民俗学概説Ⅱ	1後	2		○									兼1			
		アジア史概説Ⅰ	1前	2		○									兼1			
		アジア史概説Ⅱ	1後	2		○									兼1			
		ヨーロッパ史概説Ⅰ	1前	2		○									兼1			
		ヨーロッパ史概説Ⅱ	1後	2		○									兼1			
		生涯学習概論Ⅰ	2前・後	2		○					1				兼1			
		生涯学習概論Ⅱ	2前・後	2		○					1				兼2			
		現代社会と社会教育	3前・後	2		○									兼2			
		小計（71科目）	—	—	12	125	0	—			15	9	0	0	0		兼21	—
		免許および資格関係科目	教職等に関する科目	現代教職論	1前・後	2		○										兼1
教育基礎論	1前			2		○									兼1			
教育の制度と経営	1後			2		○					1							
教育課程論	2前			2		○					1							
道德教育の理論と方法	2前・後			2		○									兼2			
教育の方法と技術	2前・後			2		○									兼1			
教育相談の理論と方法	2前・後			2		○									兼2			
生徒指導・進路指導の理論と方法	2前・後			2		○				1					兼3			
社会・地理歴史科教育法（概論・理論）	2後			2		○									兼2			
社会・公民科教育法（概論・理論）	2後			2		○									兼2			
社会・地理歴史科教育法（実践）	3後			2		○									兼1			
社会・公民科教育法（実践）	3後			2		○									兼1			
社会・地理歴史科教育法（応用）	3前			2		○									兼1			
社会・公民科教育法（応用）	3前			2		○					1							
社会科教育法（発展）	3前・後			2		○									兼1			
特別支援教育論	3前・後			2		○				1								
特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	3前・後			2		○									兼2			
介護体験実習	3通			2						○	1				兼2			
教育実習Ⅰ	4通			3						○					兼2			
教育実習Ⅱ	4通			2						○					兼2			
教職実践演習（中・高）	4後	2					○		2	2			兼4					

教育課程等の概要															
(教養学部人間科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会教育主事に関する科目	博物館概論	1前		2		○									兼1
	博物館教育論	1前・後		2		○									兼1
	市民活動論	1後		2		○									兼1
	図書館概論	2前		2		○									兼1
	地域スポーツ論	2前・後		2		○									兼3 オムニバス
	スポーツ指導論	2前・後		2		○									兼1
	地域構想論	2前・後		2		○									兼3 オムニバス
	生涯学習支援論	3通		4		○									兼2
	社会教育実習Ⅰ	3前		1				○	1						集中
	社会教育実習Ⅱ	3後		1				○	1						集中
	社会教育課題研究	3通		4				○	1						
	地域教育論	3前・後		2		○									兼1
	地域社会論	3前・後		2		○									兼1
	地域文化論	3前・後		2		○									兼1
	スポーツマネジメント	3前・後		2		○									兼1
	社会教育経営論	4通		4		○			1						兼1
図書館制度・経営論	4前・後		2		○									兼1	
免許および資格関係科目 日本語教員資格に関する科目	文化基礎論ⅠA	1前		2		○									兼1
	文化基礎論ⅠB	1後		2		○									兼2 オムニバス・共同(一部)
	言語基礎論ⅠA	1前		2		○									兼1
	言語基礎論ⅠB	1後		2		○									兼1
	日本語教育学概論	1前・後		2		○									兼1
	日本語学	1前・後		2		○									兼1
	日本文学史A	2前		2		○									兼1
	日本文学史B	2後		2		○									兼1
	言語基礎論Ⅱ	2前・後		2		○									兼1
	日本の言語文化論	2前・後		2		○									兼1
	日本文化論特論	2前・後		2		○									兼1
	言語習得論	2前・後		2		○									兼1
	言語とコミュニケーション	2前・後		2		○									兼1
	異文化コミュニケーションA	2前		2		○									兼1
	異文化コミュニケーションB	2後		2		○									兼1
	社会言語学	2前・後		2		○									兼1
	日本語学特論	2前・後		2		○									兼1
	日本語教授法	2前・後		2		○									兼1
	日本語文法論	3前・後		2		○									兼1
	日本語教育学特論Ⅰ	3前・後		2		○									兼1
	対照言語学	3前・後		2		○									兼1
	Advanced English Communication A	3前		1		○									兼2
	Advanced English Communication B	3後		1		○									兼2
	ドイツ語コミュニケーションⅢA	3前		1		○									兼1
	ドイツ語コミュニケーションⅢB	3後		1		○									兼1
	フランス語コミュニケーションⅢA	3前		1		○									兼1
フランス語コミュニケーションⅢB	3後		1		○									兼1	
中国語コミュニケーションⅢA	3前		1		○									兼1	
中国語コミュニケーションⅢB	3後		1		○									兼1	
韓国・朝鮮語コミュニケーションⅢA	3前		1		○									兼1	
韓国・朝鮮語コミュニケーションⅢB	3後		1		○									兼1	
日本語教育実習法	3後		2		○									兼1	
日本語教育学特論Ⅱ	4前・後		2		○									兼1	

教育課程等の概要																
(教養学部人間科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
免許および資格関係科目	公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	1前・後	2		○			1	2					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼54 兼232	オムニバス
		障害者・障害児心理学	2前・後	2		○				1						オムニバス
		福祉心理学	2前・後	2		○			1							オムニバス
		司法・犯罪心理学	2前・後	2		○										集中
		脳神経科学（人体の構造と機能及び疾病）	2前・後	2		○										集中・オムニバス
		精神疾患とその治療	3前・後	2		○				1						オムニバス
		関係行政論	3前・後	2		○			1	2						オムニバス
		心理演習	3前・後	2				○	1	2						オムニバス
		心理実習	3通	2						2	2					集中・オムニバス
		小計（80科目）	—	0	155	0	—	—	—	5	5	0	0	0		兼54
合計（269科目）		—	26	456	2	—	—	15	9	0	0	0	兼232	—		
学位又は称号	学士（教養学）		学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
教養教育科目38単位、地域教育科目2単位、外国語科目6単位、学部共通科目14単位以上、学科専門科目54単位以上、その他10単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 <b>【学年次履修登録制限（東北学院大学教養部履修細則）】</b> 第9条 履修登録をすることができる単位数は、次の各号に定める区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。 (1) 第1学年 44単位以下 (2) 第2学年 44単位以下 (3) 第3学年 44単位以下 (4) 第4学年 48単位以下 2 「外国語科目 第3類」及び「免許及び資格関係科目」に関しては、前項の制限単位には含めない。 3 編入学生、転学部生及び転学科生は、適切な指導を受けた上で、第1項の制限を超えて48単位まで履修登録をすることができる。 4 学則第24条の3、学則第24条の4及び学則第24条の5の規定により修得した単位の取扱いについては、前項の制限単位に含めない。						1 学年の学期区分			2期							
						1 学期の授業期間			15週							
						1 時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 TG ベーシック 人間的基礎	聖書を学ぶ	本授業は、旧新約聖書の構成と内容の概略を学ぶことを目指している。聖書が書かれた歴史的背景とその思想を正確に捉え、聖書の成立事情及び各文書の文学上の性格を理解する。聖書のメッセージを理解して、それを正しく受け取ることにより、よく生きようとする態度を学ぶ。本授業においては、(1) 聖書の内容に親しみ、聖書の箇所を正しく開くことができる、(2) 聖書の基本的内容(メッセージ)を理解し説明できる、ことを目標とする。	
	キリスト教の歴史と思想	本授業は、キリスト教の歴史の概略を学び、キリスト教の基本的な考え方、その思想を学ぶことを目指している。キリスト教史における様々な歴史的出来事を学び、その意義を正確に捉えるだけではなく、キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方から学ぶことを通して、よく生きようとする態度を身に付ける。本授業では、(1) キリスト教の歴史を理解し、説明できる、(2) キリスト教の基本的な考え方を理解し、説明できる、(3) キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方を理解し説明できる、ことを目標とする。	
	キリスト教学A	新約聖書、とりわけイエスとパウロに関する伝承を読み取ることを通して、その言葉と行いを理解するとともに、比較宗教学の手法を援用することで日本の古典(古事記)やギリシャ神話との比較を行いつつ、それらキリスト教を含む古代の諸宗教の教説が、どのような歴史的変遷を経て現代社会の様々な諸問題、とりわけ倫理観やジェンダー理解に影響を与えているかを考察する。本授業では、(1) 聖書を正確に読み取り、キリスト教に関する基礎的知識を身に付けること、(2) 現代社会の様々な問題、とりわけ倫理的な問題を、聖書や他の諸宗教神話などの視点を通して歴史的に考察することができること、を目標とする。	
	キリスト教学B	「スピリチャリティ(霊性)」という言葉が、最近頻りに聞く。ユダヤ・キリスト教では、目には見えなく、また理性では理解できない、いわゆる「スピリチュアル(霊的)」な存在や出来事を重んじる伝統があり、それは日本における諸宗教も同じである。本授業ではユダヤ・キリスト教と日本の霊性を詳しく検討し、両者の相違点や類似性を明らかにし、諸宗教の霊性の内実を確かめたい。同時に、現代世界における「スピリチャリティ」の意義も考えたい。授業では映画などの様々な視聴覚教材を用いて、分かりやすく説明することに努める。本授業では、(1) 諸宗教における「スピリチャリティ」の歴史的意義を理解し、ユダヤ・キリスト教と日本の宗教を様々な視点から捉え直すことができる、(2) 「スピリチャリティ」の価値と同時にその危険性も合わせ考察することができる、(3) 「キリスト教学A」で学んだキリスト教に関する基礎的知識を本授業によってさらに肉付けし、西洋社会と文化の基盤を築くキリスト教の知識を自分のものにする、ことを目標とする。	
	キリスト教学C	なぜ日本でキリスト教が広まらないのか。本授業ではこの問い掛けを中心に置きながら、キリスト教と日本の文化の関わりについて考える。ユダヤ・キリスト教と日本の文化を詳しく検討し、両者の相違点や類似性を明らかにする。本授業では、(1) 日本におけるキリスト教の歴史について説明できる、(2) 日本人の宗教観やその宗教的特性について理解する、(3) 日本の文化的背景とキリスト教の関係について自分の言葉で説明できる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベーシック 人間的基礎	キリスト教学D	現代に生きる私たちに、聖書が何を伝えようとしているのかを理解することが本授業の目的である。平和とは何か、平等とは何か、格差をどのように乗り越えるべきか、など私たちが抱く問いに聖書がどのように答えているか参加者が理解できるようにする。本授業ではイエスとパウロに関する伝承を読み取ることを通して、その言葉と行いを理解し、現代社会の様々な諸問題を彼らの視点を通して考えたい。授業では映画などの様々な視聴覚教材を用いて、分かりやすく説明することに努める。本授業では、(1)聖書を正確に読み取り、キリスト教に関する基礎的知識を自分のものにする事ができる、(2)本授業を通して、現代社会の様々な問題を聖書の視点を通して考察することができる、(3)本授業を通して聖書に関して共感する点、また受け入れがたい点を自分の言葉で正確に説明することができる、ことを目標とする。	
	共生社会と倫理	本授業は、経済のグローバル化に伴い急速に到来した共生社会とは何か、を地域社会の持続的発展との関係という視点から考察することをテーマとする。前半ではグローバル化の進展を検討しながらその特徴を明らかにしたうえで、共生社会の基礎である価値観・倫理観との関連性について明白にする。後半では地域社会の特性を活かす共生社会の仕組みやあり方を検討する。そして共生社会を生きていくためにグローバル化との関わりや社会の多様性と格差是正・持続的発展・地域社会との両立など諸問題を理解する力を養成する。本授業では、共生社会の意味とその特徴を理解できるようになることを目標とする。なお、本授業は講義形式で行う。	
	科学技術社会と倫理	本授業のテーマは現代社会と科学技術の関わり及びその活用における倫理的側面について理解し、考えることである。産業革命から始まり、発展してきた科学技術は我々の生活を便利にかつ豊かにしてきた。機械技術は高速大量の輸送や大量生産を可能にし、電気電子技術は便利なエネルギーの供給、通信や機器の高度化で現代の情報化社会を支え、土木建築技術で生活環境が拡がり、快適になった。その一方で、エネルギー消費や公害などの諸問題、不適切な運用などの負の側面、倫理的課題もまた併せて考える必要がある。本授業においては、社会を支える科学技術を理解し、それとの関わり方について正しい判断ができるようになることを目標とする。	
	よき社会生活のために A (法律)	講義のテーマは、大学生が社会生活を送るにあたり求められる重要な法的知識を、具体的事例を用いて習得することである。本授業においては、具体的な法的問題や身近な法的トラブルを素材にして、解決策を検討する。これらの課題解決を考える過程において、大学生が社会生活を送るうえで必要となる法的知識や法的な考え方を講義形式で解説する。また一方的な講義のみならず、一部アクティブ・ラーニングの方式も取り入れ、法に関する考え方をさらに深めるようにする。したがって本授業においては、受講生が、社会において法が果たしている役割を理解できるとともに、法的問題を自らの力で考えることができることを達成目標とする。	
	よき社会生活のために B (福祉)	近年、個人の生き方が多様化する中、一人一人の生き方に合ったお金の知識や活用方法を身に付け、家計の適切な管理や合理的な生活設計を立てることが必要不可欠となっている。本授業を通じて、受講生には自立した市民として「よき社会生活」を送ることができるよう、ライフステージ別に個人が身に付けるべき様々な知識を学ぶ。主な講義内容としては、長期的視点に立った生活設計の手法、年金制度・健康保険・雇用保険などの社会保障制度に関する基礎知識などが挙げられる。本授業の到達目標は、今後経験するであろう様々なライフイベント(就職・結婚・子育て・教育・退職など)に対して、受講生それぞれにとって最適な対応策(例えば教育においては学資保険の活用)を講じることができるようになること、である。なお本授業は講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 TGベーシック	人間的基礎 よき社会生活のためにC(健康)	本授業は、知的活動や文化創造活動など人間行動の基盤となる心身の健康について学ぶ。身体と心の健康について前後半に分けて各専門の教員が講義を行う。本授業では、(1)現代社会における健康の諸問題について広く関心を持つ、(2)心身の健康について、重要な知見や実践的提言を理解し説明できる、(3)獲得した知識を基に、自発的、積極的に健康行動に移す態度を持っている、ことを目標とする。  (オムニバス方式/全15回)  (13 岡崎勘造・14 金井嘉宏/1回)(共同)ガイダンス  (13 岡崎勘造/7回) 「身体の健康」に関する授業では、肥満、社会、ライフステージなどと運動の関係を講義する。  (14 金井嘉宏/7回) 「心の健康」に関する授業では、ストレス、うつ病、人間関係、生活習慣など健康との関係を取り上げ講義する。	オムニバス方式・共同(一部)
	知的基礎 リーディング&ライティング	大学での学修に必要な読解力・作文力の修得を目的とした入門科目である。読解力(リーディングスキル)には、文献の検索・入手、文章の要約、文章の構造的な理解等を含む。作文力(ライティングスキル)には、基本的な文体・文章の表現、パラグラフの構成、レポート全体の構成等を含む。実際に文献を検索、読解し、文章を書き、互いに批評し合いながら、読解力及び文章力の向上を目指す。本授業においては、(1)基本的な読解力を身に付け、専門書を読むことができること、(2)論理的な文章、レポートを書くことができること、を目標とする。	
	知的基礎 クリティカル・シンキング	「クリティカル・シンキング」(批判的思考)とは、物事を論理的・分析的に捉える際に働く思考のことである。具体的なテーマを取り上げて討論に取り組み、その結果を交流する。討論を通して他者の論理・主張・根拠を読み解き、評価する、論理の整合性や因果関係を捉える、自分の推論プロセスを意識的に吟味する等のトレーニングを行う。本授業においては、(1)他者の意見や文章に対して批判的思考を活かし、論理的に評価することができること、(2)自身の考えを批判的に捉え、明確な根拠を持って意思決定したり、論理的な文章を作成できること、を目標とする。	
	知的基礎 情報リテラシー	本授業では、自身のコンピュータを安全に活用するために必要となる基本的なセキュリティ、インターネットを活用するために必要となる基礎知識やマナー、これからの学習活動に必要なデータ活用方法などを事務支援ツール(文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト)を用いながら実践的に学修していく。本授業の到達目標は、次のとおりとなる。(1)自身のコンピュータでは、脅威への対策を講じることができるようになる、(2)電子メールなどのコミュニケーション手段を正しく利用できる、(3)危険性や妥当性に配慮しながら、インターネット上のデータを事務支援ツールを使って実際に活用することができる、こととする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベーシック 課題探究	統計的思考の基礎	この授業のテーマは「統計情報を正しく読み解く」である。私たちが様々な場面で目にする「統計」や「データ」には、正しいものあれば間違っただけのものもある。また、統計数値やデータが正しくても、その意味を間違えて理解・説明してしまうことも珍しくない。この授業では、統計とデータに関する基礎的な知識の解説を講義形式で行う。本授業においては、(1)統計数値やグラフなどの情報を読み取り、その内容を正しく理解・説明することができる、(2)統計リテラシー及び社会調査リテラシーの基礎知識を理解することができる、(3)「証拠に基づく議論」の重要性を理解し、それを実践することができる、の3点を目標とする。	
	科学的思考の基礎	“科学的に考える”とは“科学の知識を身に付ける”ことではない。様々な情報に基づいて、よりよい生き方、よりよい行動が取れるように考えることを意味する。何気ない日常のことも、実は“科学的思考”と密接に関わっている。本授業では、論理や数字、グラフの見方や考え方、よりよい仮説を求めめる思考法などを通して、日々目にする様々な情報を正しく評価・判断する力を身に付ける。本授業では、(1)「科学的思考」を理解するとともに考えるための道具を身に付け用いることができる、(2)世の中の様々な発言や文章を批判的に捉え、「科学的」に判断することができる、(3)日常の様々な場面において「科学的」に判断し、行動することができる、ことを目標とする。	
	キャリア形成の探究	今後の大学生活において自らのキャリアを考える重要性を理解することがテーマである。キャリアとは人それぞれの勉学、仕事、生活の全てであり人生そのものである。これからの自分自身のキャリアを見つめ、アクティブラーニングを通じて様々な角度から自分と社会を探究する。本授業は、(1)自分自身の理解を深め大学生活における行動目標を立てることができる。(2)コミュニケーションの取り方の基本を学び実践できる。(3)社会や仕事、働き方に対する理解を深め、これからの人生について考えることができる。(4)自ら考え行動する力を身に付け実践できるようになる。以上4点を達成目標とし、大学生活を有意義に過ごすことができるスキルとスタンスを学ぶ授業である。	
	東北学院史の探究	本授業では、創設期である明治期から平成・令和期までの東北学院の歴史について、単なる学校史を超えて、学都仙台の形成と東北学院の発展がどのように関わってきたのか、総力戦体制下や戦後高度経済成長期における東北学院のあゆみ、といった社会情勢と時代背景との関わりを十分に踏まえて、自校史に関わる様々な論点を整理、分析する手法を体得していく。具体的には『東北学院の歴史』及び『東北学院百年史』をテキストとしながら、グループワークを主体とする課題探究型講義としていく。本授業では、(1)東北学院が地域社会の発展に果たしてきた役割について説明することができる、(2)「東北学院の歴史」探究を通じて、近現代日本の様々な事例について客観的かつ多角的な視点から自分の意見を述べるができる、ことを目標とする。	
	データ活用による探究	本授業では、各種行政機関や民間企業が公開するデータを中心に、実践的なデータ分析の手法・レポート作成法などについて学習する。Officeツールに加え、プログラミング言語Pythonや統計解析用言語Rを用いた基礎的な技術を初歩から学び、データ収集、データ形式の変換のためのプログラムの作成や、データ管理のためのデータベース利用などについて取り上げる。データ分析のための環境基盤を利用して集めたデータを様々なアプローチで分析し、課題発見や解決策法を見出す技術を養う。本授業では、データの多様な可視化などの技法を扱えるようになり、加えてデータの価値を高めるデータハンドリングについて理解・説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目  T G ベーシック  課題探究  共通教養科目  人文系	地域ボランティア活動の探究	現代社会において「ボランティア活動」という言葉の概念や対象は大きく拡大し、多種多様な実践が展開されている。本授業では、ボランティアの発展史、基礎理論、マネジメント方法などに関して、地域での具体的事例の検討やボランティア実践を取り入れながら学修を進め、地域においてボランティア活動が果たす役割の理解を深める。本授業においては、(1)ボランティア活動に関するその発展史と基礎理論を、自分の言葉で説明することができる、(2)地域におけるボランティアの役割と必要性を理解し、自分の言葉で説明することができる、ことを目標とする。	
	地域課題の探究	「地域」は、特定の空間領域を指し示すだけではなく、歴史・文化や経済などが織り込まれた複雑なシステムである。本授業では、地域社会や地域企業が抱える課題を発見し、その背景となる事象を科学的に理解したうえで主体的な学修によって解決策の提案に繋げていく。本授業においては、(1)地域課題を根拠に基づいて理解し、他者に説明することができる、(2)地域の将来像と課題解決策を示し、他者に説明することができる、(3)課題解決策と大学における自身の学修との関係性を理解し、他者に説明することができる、ことを目標とする。	
	課題探究演習	本授業では、複数の教員がそれぞれテーマを設定して、各25人を上限としたクラスで、学生自らが学び、学生間での質疑などを通じて、設定されたテーマに対する理解を深めていく。テーマとしては、スポーツ、生活文化、言語論、社会問題などの分野を予定している。本授業では、(1)興味関心のある内容に関連する文献を選定することができる、(2)文献の内容を理解し簡潔に要約することができる、(3)要約した内容を他の受講生に分かりやすく説明することができる、(4)これらのことを通じて自らの新たな研究テーマを見出すことができる、ことを到達目標とする。	
	哲学	人間が単なる生物であることをやめ、世界における自分の立ち位置に関心を寄せる特別な存在になってからというもの、万物の根本原理や倫理的に正しい生き方といったテーマは、人間が人間であるために欠かすことのできない中心的な主題となってきた。本授業では、古代から現代に至る様々な題材を基に、こういった事柄を問う学問である「哲学」を概観する。本授業においては、(1)哲学的な問いの立て方に親しむ、(2)哲学史上の重要人物や著作に関する知識を身に付ける、(3)複雑な議論の道筋を追うことができる、(4)身近な事柄を哲学的に捉え直し、自らの問題意識を哲学的に表現することができる、ことを目標とする。	
	芸術論	本授業では、あらゆる時代の様々な物を表現する芸術作品を、確かな目で「見る」ための方法を学び、技術を培う。そのうえで、芸術作品と対峙し、歴史の中でそれを「見る」ことそのものについて考えていく。芸術論における目標は、以下の3点である。(1)芸術作品を「見る」ことそれ自体に、問題意識を持つことができる。(2)古い時代から現代まで、歴史の中で生み出された芸術作品を「見る」際に、どのような問題が伴うかを考える力を身に付ける。(3)ある時代の芸術作品を考える際に、前提としてそれ以前の時代の芸術作品について学ぶ必要性を理解することができる。	
	文化の歴史	人間が育んできた多様な文化の歴史を概観しながら、その意義について考察していくことが、本授業の目的である。扱う対象は大きくは思想、芸術、文学の分野であるが、そうした伝統的な枠組みに収まらない文化現象も広く想定している。本授業の目標は、(1)文化の具体例に基づきその発展の歴史をたどることができるようになること、(2)いま見られる文化の形式を歴史的に位置付けることを通じて、将来それがどう発展しうるかを展望できるようになること、(3)そもそも人間はなぜそうした文化を必要として、またそこには人間のどんな本質が現れているかを考察できるようになることである。	



授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 人文系	音楽	音楽は人間の自然な営みから生まれ、言語や民族性に深く関わりつつ発展を続ける文化である。本授業においては、(1)有史以来の音楽観の変遷、キリスト教との関わりにおける音楽の歴史、そしていわゆる「西洋」に於ける音楽芸術の伝統を学び理解することができる。(2)特に声楽(合唱)と器楽(オルガン)の実践を通して鑑賞力を養う。(3)これら年代的に広範な広がりを持つ音楽の懐にいだなわれること、それらの持つ精神性に触れ、心動かされた内容を文章に書き表すことができる。以上をこの授業の目標としている。授業は講義形式をとるが、演奏実習の他、CD、DVD、実演等を通じて可能な限り優れた演奏を鑑賞する機会を設ける。	
	倫理学	応用倫理学における基本問題を理解することがテーマである。現代社会では、新しい科学の発展に伴って、様々な倫理的問題が生じている。本授業では、(1)具体的には何が問題となっているのか、(2)その問題の持つ倫理的な含意はどのようなものか、(3)そうした問題に対し、我々はどうに対応すれば良いのかについて、応用倫理的な視点から概観する。本授業では、応用倫理上の諸問題について、(1)関連する科学/技術の基本的なあり方が理解できるようになる、(2)概念上の混乱を取り除き、決疑論的な観点から問いを立てられるようになる、(3)その解決策を自分なりに検討できるようになる、ことを目標とする。	
	文学	本授業のテーマは、「自己と他者」「生と死」「家族」「恋愛」「都市」「異空間」などの観点から、日本近現代文学を解析することである。まず、テキスト内部の構造を理解し、その脈絡の中で小説の言葉の意味を把握するための手順を学ぶ。その際、内容だけではなく小説の書かれ方にも注意を向けつつ、分析概念についても学習する。次に、小説内時間や発表時期における歴史的社会的文脈を調査し、それに接続したうえで小説の言葉の意味を探っていく。これらを通じて、本授業では、小説の有する問題について小説の内外から証拠を挙げて考察できるようになることを目指す。なお、日本古典文学や日本以外の国や地域の文学を対象とする場合もある。	
	歴史学	古代史から近現代史まで各教員の専門分野に基づいた講義を通して、歴史学とは、一次史料に基づき史料批判を加え続けていく学問であることを体得していく。授業は講義形式を取り、具体的な歴史史料(文献・絵画・石碑・史跡など)を読み解きながら、歴史を明らかにする手法について学んでいくことになる。本授業では、(1)歴史学の概要について説明することができる、(2)歴史学と現代との関わりについて説明することができる、(3)歴史的な事例について客観的かつ多角的な視点から自分の意見を述べるることができる、ことを目標とする。	
	文化人類学	文化(各社会の人々が共有するものの見方・考え方)は多様である。文化人類学とは、多種多様な異文化の理解を通じて、私達にとってのアタリマエが少しもアタリマエではなかったことに気付くとともに、「人間とは何か」という問いに対し普遍的な答えを探そうとする学問である。講義では概説は最小限にし、異文化の実例を通じて、こうした文化人類学的アプローチの肝心な部分を理解できることを目指す。本授業では、(1)私達にとってのアタリマエが実はちっともアタリマエではないかもしれないと疑う姿勢を身に付けることができる、(2)「人間とは何か」を深く考えようとする態度を身に付けることができる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 社会系	言語論	本授業のテーマは、人間の言語に対してどのような学問的アプローチが可能かを解説することである。内容としては、言語を対象とした学問が古代ギリシア時代にまで遡る歴史を持ち、現在も様々な分野に分かれた多様性を示すことを確認したうえで、言語を対象とした科学的研究がどのようなものか、その概要を提示する。授業は講義形式で行う。本授業の達成目標は、人間の言語と動物による情報伝達の違いを理解し、日本語などを対象とした研究領域や各種言語理論に触れ、人文・社会・自然科学における言語研究の位置付けを理解するとともに、日常的な言語表現の分析などを通して、言語研究の意義を理解することである。	
	社会学	代表的な社会学の理論を基に、「ライフイベント」つまり個人が生涯に経験するいくつかのイベントについて社会的に考察する力を身に付ける。特に、学校から就職・職業生活、恋愛や友人関係、病気・看護といった、多くの人々が経験する身近なライフイベントが持つ意味を社会学や社会史の観点から見ることによって、現代の社会学理論の有効性を理解する。本授業では、身近な事例から社会的思考法の基礎を学ぶことによって、ミクロな事象とマクロな事象との関連を見つける社会的想像力を身に付けることを目標とする。なお本授業は講義形式で行う。	
	経営学	本授業は、「経営学の理論と企業経営の実際を学ぶ」をテーマとする。授業においては、経営学の理論を使って企業を分析できるようになるとともに、企業経営の実際と照らし合わせて自身のキャリアパスを描くことができることを目標とする。授業では、まず企業とは何かについてその役割や形態について学び、その後、経営学の諸学説を現実の企業経営に照らし合わせながら理解を深めていく。そして、企業経営の実際として、ケース研究により企業事例を学ぶとともに、近年の企業課題について環境経営やCSR(企業の社会的責任)などから迫っていく。授業は講義形式で行い、受講生は毎回小レポートを提出して内容の理解を深める。	
	経済学	教養科目として経済学を学修する意義の一つは、「政策や法律が、私たち市民等の個人や会社等の団体に対してどのような影響を与えるかを推測したり、評価したりするための技術を修得できる」という点である。本授業では、「消費税が上がると、教科書が現在よりも300円高くなったら、大学生の行動はどのように変わるだろうか?」「最低賃金が上がると、コンビニエンスストアの時給が100円高くなったら、大学生の行動はどのように変わるだろうか?」といったことを、筋立てて推論できるような思考力を身に付けることを目標とする。	
	法学	本授業のテーマは2つある。1つは、学生にとって身近な具体例を素材にして、常識的な考えから法的な考え方へと歩を進め、法的思考の特徴とその背景を理解することである。もう1つは、憲法、民法、刑法、労働法などの学習を通じて実定法の概要を把握することである。このようにして受講者は、身近な具体例と法の対応関係を講義形式で学ぶことで、法の体系的知識を獲得する。同時に毎回、受講生同士が議論をする機会を持ち、体系的知識の具体的な応用を学ぶ。本授業においては、各自が法学の基礎知識と思考法を修得し、法的主体として公共世界の構築に参画できるような力を身に付けることを達成目標とする。	
	日本国憲法	日本国憲法を概説することをテーマとし、講義形式で授業を進める。憲法に関わる人権や統治機構といった諸問題について、基本的な考え方を修得するという目標を達成するために、人権とは何か、国会の役割は何か、司法審査の役割は何かといった、憲法の基礎的な知識を概観したうえで、憲法に関わる諸問題を考える際の筋道について説明する。具体的には、「憲法総論(国家・立憲主義・主権・民主主義・その他の日本国憲法上の諸原理等)」「統治機構(国会・内閣・裁判所・地方自治・財政)」「人権(人権の概念・人権の主体・人権の適用範囲・違憲審査基準論・精神的自由・経済的自由・社会権・請求権等)」を扱う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 社会系	現代の政治	政治学から社会を視ることをテーマとする。政治学の様々な方法・研究成果に言及しながら、現代政治の多様な側面を検討する。それらとの関わりから生じる諸問題に目を向けさせ、対立する意見の中から自分の考えを持つことができるようになることを達成目標とし、現代の身近な政治現象を理解・分析するための重要かつ基本的な概念や理論について講義形式で概説する。具体的には、政治社会学の視座、政治とは、道具・装置としての概念、個人と社会—制度と社会化の視点から—、制度、社会化、青年期と産業社会、政治社会—支配性を中心に—、権力と服従、権威／権威主義、日常生活における権力作用、制度及び社会の再生産を扱う。	
	地理学	本授業は、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、受講生自らが論理的に考えることの重要性に力点を置いた授業を行う。高校時代に地理を学習していない受講生も想定されることから、授業では高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像を使用することで、地理学を身近な学問として感じられるような様々な工夫を取り入れる。本授業の到達目標は、(1)地理学の基礎的な知識を身に付ける、(2)様々な地域事象を地理学的な観点から見るようになること、である。なお本授業は講義形式で行う。	
	社会福祉論	本授業は、社会福祉の基本的枠組みを示しながら、社会福祉への興味・関心を深めてもらうことを意図する。具体的には、社会福祉の理論、歴史を中心にして、現代社会福祉の課題と展望について明らかにする。また具体的な福祉活動を紹介することで、受講生には社会福祉活動の明確なイメージを持ってもらいたい。本授業では、(1)現代における社会福祉の意義と役割について理解することができる、(2)現代における社会福祉の現状と課題について理解することができる、ことを到達目標とする。なお本授業は講義形式で行う。	
	ジェンダー論	本授業では、「近現代哲学の主体概念と女性」「新国際分業と女性」「IT技術とジェンダー」「Black Lives Matterと黒人のセクシュアリティ」「性的多様性と文学」といった領域横断的な主題から、現代社会と文化におけるジェンダーの諸問題を学ぶ。まず国内外のニュースや事例を紹介し、その背景にある性差を巡る前提を考察する。次に、その前提を批判的に理解するための概念や理論を導入する。概念と理論を深く知るため、歴史的背景を補足しながら作品(文学や映画等)を導入し、理論的に解説する。これらを通じて、本授業では、ジェンダーの諸問題を深く考えさせ、ジェンダー研究の意義を理解することを達成目標とする。	
	東北地域論	東北地方の地域経済の実態や課題を、当地域の分析のみならず、他地域(主に同規模経済の九州)との比較(農業、工業、地場産業、商業)を行いながら検討していく。これを通じて、相対的な東北地域の地域経済の特徴を明らかにしていく。また、東日本大震災からの経済復興についても、その実態と課題を明らかにして、復興の可能性についても考えていく。トピックに応じてゲストスピーカーを呼ぶことがある。本授業では、(1)東北地方の地域経済の地位を、東北地方の自然条件(主に地形と経済活動)、交通条件等から理解できるようになるだけでなく、グローバル化を踏まえた「日本レベル」という位置付けでも理解できるようになる、(2)とりわけ東北独自の産業的特色が理解できるようになる、(3)東日本大震災が東北の地域経済にいかに関与したか、復興の現状と道筋についても理解・評価ができるようになる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 自然系	数理の科学	方程式・不等式などの取り扱いを再確認し、具体的な問題を解くことにより、その有用性について解説する。また、整数など基本的なものの性質を学ぶことを通して数理的な考え方を説明する。本授業では、(1)日常生活で出会う諸問題の中で、高校までに習った数学的手法を用いて解けるものを解こうとする態度を示すことができる、(2)そうした具体的問題を数学的に解くことができる、(3)定性的に解釈された物事を定量的、数理的に捉え直そうとする態度を示すことができる、(4)具体的問題について、定量化の工夫をすることができる、ことを目標とする。	
	記号論理学	本授業のテーマとなる「論理」は、日常的な議論において重要であるだけでなく、情報科学や数学、哲学といった分野の基盤としても中心的な役割を担っている。本授業では、現代の記号論理学を学ぶことで論理に対する理解を深める。本授業においては、(1)記号論理学という学問が対象とする論理的現象の性質を正確に説明できる、(2)記号を用いた論理学の出発点となる命題論理の仕組みを理解する、(3)命題論理よりも豊かな表現力を持つ(一階)述語論理を学び、その仕組みを理解する、(4)記号論理学が現代の様々な学問分野においてどのように重要な役割を担っているのかを説明できる、ことを目標とする。	
	生命の科学	本授業では、生命の原理であるDNAの働きを理解し、その原理から現在の地球を彩る多様な生物がどのように発展してきたかを、生物の特性である「秩序化」「再生産」「成長と発生」「反応性」「恒常性の維持」「進化・適応」と関連付けながら学習する。また、現代社会において生命の科学が我々の身の周りでどのように応用されているかを、iPS細胞や遺伝子治療などの具体例から学んでいく。本授業では、(1)DNAとは何か説明することができる、(2)生物の多様性がどのように発展してきたか説明することができる、(3)生命活動の動的特徴を説明することができる、(4)様々な問題を生命の視点から科学的に考えることができる、(5)生命の科学と自分自身の生活との関わりが関連付けられる、ことを目標とする。	
	環境の科学	「生物が暮らす空間」としての生物圏は、地球の表層部を覆う厚さ20kmほどの薄層に過ぎない。3000万種とも推定される多様な生物とそれを包み込む環境は、46億年の時を経てどのように進化してきたのか、また、ヒトの活動は生態系にどんな影響を及ぼし、生物圏の未来にどう作用するのか。生物学・生態学の視点から、環境と生物、ヒトの関わりを考える。ヒトの活動による自然環境の激変が、大気や水、植生、食料生産、日々の暮らしに大きな影響を及ぼし、格差や貧困、紛争をも引き起こしている。人類の存続を左右する環境問題の解決に向けて、自分自身は何ができるのか、本授業を履修することによって、グローバルな視点から生物圏の実態と成立過程を理解し、その答えを模索する素地を形成することができることを目標とする。	
	自然の科学	自然科学の考え方を知り、我々の住む宇宙について正しく認識することをテーマとする。主に宇宙や身の周りの自然を題材とし、これまでの科学の発展の歴史や最新の成果についての講義を通して、理論と観測の両面からの科学的な研究の進め方や最新の知見について説明する。また、太陽や惑星など現在の我々を取り巻く天体について知ること近い将来の課題について考察する。本授業では、(1)科学的な問題や日常的問題に対して論理的な考え方ができること、(2)宇宙の時間的・空間的な広がりを知り、その中での人類の位置を考えることができること、を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 自然系	先端科学と技術	本授業のテーマは、先端の科学と技術の変遷と、その発展に付随する問題や社会・環境との関わりを考え、理解することである。具体的には科学技術の変遷を背景として、現代の先端技術を幅広く、各回に個別テーマを設定して講義する。テーマとしては、自然エネルギーや燃料電池、ナノテクノロジー、ロボット、バイオテクノロジー、医療技術といった、今後の発展を見据えた技術そのものに加え、環境問題などの科学技術の発達に伴う負の側面、社会との関わりや倫理面などについて、今後の展望を含めて扱う。本授業においては、先端科学技術の展望と、エネルギー、社会、倫理、環境との関わりや諸問題を説明・議論できることを目標とする。	
	AI社会の基礎	本授業では、現代の情報化社会に至る経緯を振り返り、今後のAI社会への発展について学ぶ。特に、今後、情報化社会の基礎となるAIが持つ様々な役割を理解し、知識基盤社会の中で生活する我々に必要とされる知識を習得し倫理感を身に付ける。そのために、情報の価値など基礎的な内容から、AIの誕生と普及・ビッグデータの活用などの応用面まで広く学ぶ。本授業においては、(1)AI社会の特徴を理解し各々の個人がその構成員であることを説明できる、(2)AI社会を構成する様々なシステムの役割を説明できる、(3)AI社会の中でデータや情報を取り扱う際に必要となる基礎的な知識や技術を活用できる、ようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	第1類	英語ⅠA	本授業の目的は、日常生活や社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランス良く育成・向上させるために、各教員が選んだ教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、練習問題への解答などの活動を行う。入学時プレースメントテストの成績に応じたクラス編成に従い、学生の能力に応じてCEFR A1.2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
		英語ⅠB	本授業の目的は、「英語ⅠA」に引き続き、日常生活や社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。各教員が選んだ教材を用いて、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランス良く育成・向上させるために、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、練習問題への解答などの活動を継続する。「英語ⅠA」でのクラス編成に従い、学生の能力に応じてCEFR A2.1からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
		英語ⅡA	本授業の目的は、社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「英語ⅠA・ⅠB」の履修で到達した「読む・書く・聞く・話す」の4技能のレベルをさらに向上させるために、難易度を上げた教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、口頭発表などの活動を行う。クラス配属は「英語ⅠA・ⅠB」の学習成果を踏まえて調整され、各クラスに設定されたCEFR A2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
		英語ⅡB	本授業の目的は、「英語ⅡA」に引き続き、社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「読む・書く・聞く・話す」の4技能のレベルをさらに向上させるために、難易度を上げた教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、口頭発表などの活動を継続する。受講者は「英語ⅡA」と同じクラスに属し、各クラスに設定されたCEFR A2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
	第2類	ドイツ語ⅠA	ドイツ語文法の基礎を学ぶ。発音規則の修得から始め、動詞の現在人称変化、冠詞や名詞の格変化、前置詞、語法の助動詞程度までの文法項目を範囲とする。教科書の問題演習に加えて小テストを頻繁に繰り返すことによって、文法の基礎的知識の定着を図る。折に触れドイツの地誌や生活を紹介しながら、ドイツ文化全般についての興味関心を喚起する。発音練習と聴き取り練習も随時行う。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語のテキストを正しく音読できるようなること、(2)ドイツ語初学者にとって最も重要な基本的文法事項を正確に理解すること、(3)旅行に必要な程度のドイツ語の聴き取りと発話ができるようになること、の3点である。
		フランス語ⅠA	フランス語の初級文法と発音を学ぶ。初学者が特につまづきやすい箇所を重点的に説明し、練習問題を解くことにより知識の定着を図る。授業で扱った文法項目に関して、毎回一定量の練習問題を宿題として課す。文法と発音の習得に並行して、よく使われる表現方法を学び日常会話への糸口とする。ヨーロッパの諸言語との類似性にも触れ、フランス語の基礎文法習得の助けとする。また、文法学習への意欲維持のために、フランスの文化や生活を適宜紹介する。本授業においては、(1)フランス語のテキストを正しく音読し、文法を理解しながら読むことができること、(2)旅行に必要な程度のフランス語会話ができること、を目標とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語 I A	中国語(普通話)の基礎を学ぶことを目的とする。我々が中国語(普通話)を学ぶうえでの最大のネックは、皮肉にも漢字に親しみすぎている点にある。日本語として「読む」ことに慣れすぎて、外国語として「聞く」また「話す」ことに思い至らない。ならば、まずは耳と口のフォーマットから始めよう。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う発声及び発音練習が中心になる。本授業では、(1)拼音の書記法が分かるようになる、(2)拼音を見て、中国語音を発声できるようになる、(3)簡単な挨拶ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、準4級から4級レベルの取得を目標とする。	
	韓国・朝鮮語 I A	本授業では、初めて韓国・朝鮮語を学ぶ学生を対象に、韓国・朝鮮語の文字・発音・基礎的な文法・会話を習得させる。まず、ハングルの発音を正確に区別して聞き、発音できるようになる。次に、日常的によく使われる挨拶や相槌、私的な話題について簡単な質問を理解して、答えることができるようになる。その他、自分自身や家族、趣味、食べ物などの身近なことについて、韓国人がゆっくり話せばその言葉が理解出できるようになり、自分の意見を表現できるようになる。これらを通じて、ハングル検定5級(TOPIK 1級)に合格できるような「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。	
	ドイツ語 I B	「ドイツ語 I A」で学んだ内容をさらに発展させて、ドイツ語文法の基礎力の完成を目指す。修得する文法事項としては、動詞の3基本形、完了形、受動態、関係詞、接続法などが中心となる。文法力と語彙力を高める問題演習や小テスト、さらには実践的な音声教材も併用しながら、初級レベルの文法知識の定着を図る。ドイツに関するアクチュアルな情報も随時紹介する。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語のテキストを正確かつ淀みなく音読できるようになること、(2)ドイツ語文法の基礎的項目をすべて理解し説明できるようになること、(3)CEFRのA1レベル(ドイツ語検定試験4級程度)のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語 I B	「フランス語 I A」に引き続き、フランス語の基礎文法のうちの後半部分(動詞の直説法現在形に加えて様々な時制、条件法や接続法など)を学ぶ。法の変化や時制の変化がもたらすニュアンスを敏感に感じ取れるようにしながら、より高度な読解力を養成する。授業で扱った文法項目に関しては、毎回一定量の練習問題を宿題として課し、学修事項の定着を図る。本授業においては、(1)辞書さえあれば平易なフランス語を読解できるようになること、(2)正確に発音できるようになること、(3)日常生活での定型的な言葉のやり取りができること、を目標とする。	
	中国語 I B	中国語(普通話)のレベルアップ(基礎から初級へ)を目的とする。我々が中国語(普通話)を学ぶうえでの最大のネックは、皮肉にも漢字に親しみすぎている点にある。日本語として「読む」ことに慣れすぎて、外国語として「聞く」また「話す」ことに思い至らない。ならば、まずは耳と口のフォーマットから始めよう。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う会話練習が中心になる。本授業では、(1)中国語(普通話)音を聞いて、拼音に書き記せるようになる、(2)簡単な文や会話を文法に則して理解できるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、4級から3級レベルの取得を目標とする。	
	韓国・朝鮮語 I B	本授業では、「韓国・朝鮮語 I A」の履修者を対象に、比較的使用頻度の高い単語や文法を習得させる。特に、数字の理解を通して、食堂での注文や買い物、時間を約束する際に、意見を述べたり、相手の言葉が正確に理解できるようになる。そして、過去のことや未来の予定などについて話すことができ、旅行をする際には道を聞いて相手の言葉が理解できるようになる。また、目上の人に対して、基本的な敬語を用いて話し、相手の敬語が理解できるようになる。これらを通じて、ハングル検定4級(TOPIK 2級)に合格できるような「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付け、更には韓国の大学に交換留学ができることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	ドイツ語ⅡA	「ドイツ語ⅠA・ⅠB」で修得した文法項目の確認と復習をしながら、中級レベルのドイツ語力養成を目指す。インターネット上の簡単な記事、子ども用百科事典、短い小説など、平易なドイツ語原文をテキストにしながら、実践的な読解力養成を目指す。また、音読の復習や語彙力のトレーニングも随時行うことによって、ドイツ語の総合的な基礎力を確実なものとする。本授業の到達目標は、(1)1年次に修得した文法項目をさらに正確に理解すること、(2)ドイツ語の原文を、辞書を使って正確に読むことができるようになること、(3)ドイツ語のサイトを自分で検索し、必要な情報を手に入れられるようになること、の3点である。	
	フランス語ⅡA	フランスの文化について紹介されたテキストを読み、基礎文法の定着を図りつつフランスの社会や歴史についての知識を深める。テキストを音読するトレーニングを繰り返し行いながら、あわせて語彙量を増やし、フランス語の総合的な基礎力を確実なものとする。本授業では、(1)テキストに書かれた内容を理解するだけでなく、フランスの文化を通して日本の社会や生活文化を相対化した視点から捉え直すことができるようになること、(2)基礎文法と語彙の力を伸ばし、平易なフランス語であれば苦勞することなく理解できるようになること、を目標とする。	
	中国語ⅡA	中国語(普通話)のレベルアップ(初級から中級へ)を目的とする。拼音が自由自在に駆使できるようになると、辞書や参考書の類も利用できるようになる。当然、自学自習の方法も多種多様化するので、教育方法もまたバリエーションに富むことになる。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」のレベルを織り交ぜつつ進む。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う。本授業では、(1)中国語の基礎を理解できるようになる、(2)工具書の利用法を身に付けられるようになること、を目標とする。中国語検定を例にとれば、3級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅡA	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」の履修者を対象に、中級(前半)の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。尊敬語を用いた丁寧な依頼はもちろんのこと、適切な言葉を使って承諾したり拒否することができるようになる。興味のある分野について簡単に話したり、辞書を用いて書けるようになる。使用頻度の高い慣用句・連語や言い回しのほか、各種お知らせや説明書について、正確に理解できるようになる。韓国のニュースは、簡単な時事問題ならほとんど理解できるようになる。ハングル検定3級(TOPIK3級)に挑戦できるようになることを目指す。	
	ドイツ語コミュニケーションA	1年次に学んだドイツ語の基礎事項をベースにしながら、ドイツ語による基本的なコミュニケーション能力(聞く、話す、読む、書く)を養成する。日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、口頭練習を繰り返すことで、実践的なドイツ語力を確実に身に付け、語彙を拡大することで表現の幅を広げていく。ドイツの地誌の説明、日常生活や文化の紹介、ときにはドイツ語の歌の練習なども行う。この授業の到達目標は、(1)ドイツ語の聴き取りと発話ができるようになること、(2)ドイツ語で自己紹介ができること、(3)シチュエーションに応じた簡単なドイツ語のやりとりができること、の3点である。	
	フランス語コミュニケーションA	1年次に学んだ基礎文法をベースにしながら、会話の実践を通して、フランス語の聴解力と発信力を身に付ける。日常的な挨拶表現からはじめ、まずは平易な文法知識と語彙力を用いて自己紹介や天候、時間表現など日常的な定型表現を修得する。さらに様々な場面を設定しながら、適切な代名詞の使用などこれまでに学んだ文法知識を会話に活かす術を学んでいく。本授業においては、(1)簡単な挨拶や自己紹介ができること、(2)道順や時刻などをフランス語で説明できること、(3)平易な会話(自分の好きなことや趣味など)ができるようになること、を目標とする。	



授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語コミュニケーションA	1年次に学んだ中国語(普通話)の基礎をベースに、日常生活に必要なコミュニケーション能力(聞く、話す、読む、書く)を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、語彙を増やすことで表現の幅を広げていく。また、折に触れ、動画や歌を鑑賞し、中国(台湾を含む)の文化を多面的に理解する。本授業では、(1)中国語で自己紹介ができる、(2)シチュエーションに応じた簡単な中国語のやりとりができることを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語コミュニケーションA	「コミュニケーション能力」というのは、口頭で自分の意見を伝える能力及び文章で自分の意見を論理的に伝える能力を意味する。本授業では、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」の履修者を対象に、様々な場面での韓国語会話及び作文を練習する。特に、(1)本学を訪れる韓国人留学生と積極的に交流し、宮城県・仙台・自分の地元の有名な所を推薦したり、学校の施設や博物館・文学館・科学館・水族館などの利用方法を説明できるようになる、(2)辞書があればK-POPの歌詞が完全に、教員が指導すればドラマの基本的な表現も理解できるようになる、(3)関心のある分野について理解したり表現できるようになる、ことを目指す。	
	ドイツ語ⅡB	「ドイツ語ⅡA」で学んだことをベースに、中級レベルのドイツ語力のさらなる向上を目指す。ドイツ語の雑誌や新聞記事、学術的書物の入門書、有名な小説など、ドイツ語の原文をテキストとしながら、より高度な読解力を身に付けることが目標である。ドイツ語による文章作成練習なども随時取り入れることによって、実践的なドイツ語力も高める。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語文法の基礎事項をすべて正確に理解すること、(2)ドイツ語で書かれた普通の文章を、辞書を使って正確に読めるようになること、(3)CEFRのA2レベル(ドイツ語検定3級程度)のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅡB	「フランス語ⅡA」に引き続き、基礎文法の復習をしながら、フランス語で書かれた平易な短編小説などを、辞書を使って読み進めていく。調べた意味の連鎖から単に意味を読み取るとうとするのではなく、学んできた文法知識に基づいて正確に文章を解釈する訓練を行う。条件法や接続法、単純過去時制、話法変換などの解説を丁寧に言い、初等文法で取りこぼしがちな文法事項の穴を埋めていく。本授業においては、(1)フランス語の基本文法をすべて理解できること、(2)辞書を使いこなし、フランス語で書かれた小説を正確に読めること、(3)物語世界を味わうこと、を目標とする。	
	中国語ⅡB	中国語(普通話)のレベルアップ(初級から中級へ)を目的とする。拼音が自由自在に駆使できるようになると、辞書や参考書の類も利用できるようになる。当然、自学自習の方法も多種多様化する。教育方法もまたバリエーションに富むことになる。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」にも留意しつつ進む。授業は小規模クラスで、マンツーマンに近いスタイルで行う。本授業では、(1)やや複雑高度な文型や文法事項を理解できるようになる、(2)長めの会話ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級の上位合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅡB	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅡA」の履修者を対象に、中級(後半)の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。特に、日常会話だけでなく、ビジネスにおいても尊敬語を用いた丁寧な依頼はもちろん、適切な言葉を使って受諾したり拒否することができるようになる。次に、興味のある日韓の時事問題について論理的に話せたり、書けるようになる。その他、使用頻度が高い四字熟語・諺についても理解したり、比較的長い文章を読んで理解できるようになる。韓国のニュースは、教員の指導があれば理解できるようになる。ハングル検定3級(TOPIK3級)の合格、更には韓国の大学に交換留学ができることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	ドイツ語コミュニケーションB	より高度なドイツ語のコミュニケーション能力を総合的に身に付けるための練習を行う。ドイツ語の文章を読んで素早くその内容を理解する読解練習、ドイツ語での会話にナチュラルなスピードで応答する口頭練習、さらには発話力をさらに高めるトレーニングとして、ドイツ語による作文練習も多く取り入れる。この授業の到達目標は、(1)よりナチュラルなスピードのドイツ語を聴き取れるようになること、(2)ドイツ語で何かを説明したり、自分の意見を明確に表現できるようになること、(3)ドイツでの生活に必要な実践的なドイツ語運用能力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語コミュニケーションB	「フランス語コミュニケーションA」に引き続き、会話の実践を通して、フランス語の聴解力と発信力を身に付ける。直説法現在に加え、近接未来や近接過去、複合過去や単純未来など様々な時制を用いた表現を具体的な場面に即して練習していく。さらには、条件法を用いて仮定に基づくできごとを表現したり、接続法を用いて主観的感情を表現したりするなど、より高度な文法知識を適切に用いて会話に活かす術を学ぶ。本授業においては、(1)ゆっくりであれば簡単なフランス語を聞き取れるようになること、(2)過去や未来、仮定的な出来事などをフランス語で表現できるようになること、を目標とする。	
	中国語コミュニケーションB	「中国語コミュニケーションA」を引継ぎ、中国語のレベルアップ(初級から中級へ)を目的とする。日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、語彙を増やすことで表現の幅を広げていく。また、折に触れ、動画や歌を鑑賞し、中国(台湾を含む)の文化を多面的に理解する。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」のレベルを織り交ぜつつ進む。本授業では、(1)日常生活のやや複雑高度な文型や文法事項を理解できるようになる、(2)長めの会話ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級の上位合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語コミュニケーションB	本授業では、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」及び「韓国・朝鮮語コミュニケーションA」の履修者を対象に、様々な場面での韓国語会話及び作文を練習する。特に、(1)本学を訪れる韓国人留学生と積極的に交流し、日本と韓国の考え方や生活の違いについて討論したり、自分と違う考えを持つ人を説得できるようになる、(2)他の人の悩みを聞き、的確適切な言葉を用いてアドバイスできるようになる、(3)K-POPの歌詞は辞書がなくても完全に理解し、ドラマや映画は先生の説明があれば、ほとんど理解できるようになる、(4)関心のある分野について理解したり表現できるようになる、ことを目指す。	
	ドイツ語ⅢA	1、2年次に修得したドイツ語の知識を活かしながら、さらなるドイツ語力の向上を目指す。新聞の論説や雑誌のアクチュアルな記事、学術的内容の専門書、有名な古典や小説等をテキストとして、より高度な読解力を養う。また、特定のテーマについて、その内容をドイツ語で説明したり、自分の意見をドイツ語で話したり書いたりする練習も行う。この授業の到達目標は、(1)高度な文章を辞書を使って正しく読み解くことができるようになること、(2)特定のテーマについて自分の意見を正しく話したり書いたりできるようになること、(3)CEFRのB1レベル(ドイツ語検定2級程度)のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅢA	「フランス語ⅡA・ⅡB」の発展的内容となる。読む力のみならず、特に聞き取る力の向上を目指す。聞き取りは、正確に発音する力が前提となるうえ、文法知識はもとより豊富な語彙力が必要であり、その意味で総合的な語学力を身に付けなければならない。段階的に、ある程度のレベルの文章を正確に読み解く練習、そのテキストの内容を具体的なコンテキストに応じて適切に理解し概略を把握する練習、理解に基づいて適切な反応を適切な表現で行う練習を重ねる。本授業においては、主に聞き取りの訓練を行うことで、読解力、語彙力、発音といった総合的な力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語ⅢA	1、2年次に学習した中国語(普通話)の知識と経験を活かしながら、更なる中国語力の向上を目的とする。拼音の付された語学用のテキストではなく、ネイティブの中国人が読む新聞や雑誌記事、エッセイ、小説等を、多種多様な工具書を駆使して、理解できるようにする。またweb上に流れるニュースやドラマを積極的に利用し、聞く力と話す力を涵養する。本授業では、(1)高度なテキストを正しく理解できるようになる、(2)自分の意見を中国語らしく書き、述べられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、2級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅢA	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅡA・ⅡB」の履修者を対象に、高いレベルの「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。日常的な場面で広く用いられる会話はもちろん、指示・依頼・誘い・予定・過去の出来事など、やや特別な場面においても、相手に対し失礼のない言葉や表現を選び、十全なコミュニケーションがとれるようになる。また、平易なニュースや新聞の記事であれば、辞書がなくても理解でき、自分の意見も十分に述べられるようになる。ハングル検定準2級(TOPIK4級)に挑戦できるようになることを目指す。	
	ドイツ語ⅢB	これまでに修得したドイツ語の知識をすべて活かしながら、より高度なドイツ語力の養成を目指す。「ドイツ語ⅢA」に引き続き、新聞の論説や雑誌の記事、専門書、古典や小説等をテキストとし、またネットから入手できるアクチュアルなニュース動画等も適宜用いながら、ドイツ語の総合力をさらに高める。留学後のドイツ語力の維持や大学院進学への準備にも対応できる内容としたい。この授業の到達目標は、(1)ドイツ語圏での留学生活に支障のないドイツ語力を養うこと、(2)研究に必要なレベルのドイツ語文献を正確に読解できること、(3)CEFRのB1～B2レベルのドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅢB	「フランス語ⅢA」の内容を引き継ぎ、読み応えのあるフランス語のテキストの読解と聞き取り練習を中心に授業を進めていく。読解においては、単にフランス語の運用能力を鍛えるだけではなく、テキストの内容を深く掘り下げながらフランス文化や社会、思想などについて学ぶ。聞き取り練習においては、反復訓練を通じてネイティブスピーカーの正確な発音やリズムをも修得する。本授業においては、これら読解や聞き取りで学んだより自然な表現やより高度な表現、より多くの語彙を用いて、自らの考えを不足なく表現できるようアウトプットの能力も鍛え、総合的な力を養うことを目標とする。	
	中国語ⅢB	「中国語ⅢA」を引継ぎ、更なる中国語力の向上を目的とする。ネイティブの中国人が読む新聞や雑誌記事、エッセイ、小説等のほか、学術的ないし歴史的なテキストを、多種多様な工具書を駆使して、理解できるようにする。またweb上に流れるニュースやドラマを積極的に利用し、普通話のみならず、台湾国語や華語のバリエーションを意識できるようにする。本授業では、(1)高度なテキストを正しく理解できるようになる、(2)自分の意見を中国語らしく書き、述べられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、2級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅢB	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅢA」の履修者を対象に、高いレベルの「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。日常的な会話はもちろん、職務上の業務遂行に関する話題まで表現することができるようになる。また、様々なジャンルや文体の韓国語の文章を読んで理解でき、背景の説明があれば、日韓の専門的な時事問題について理解し、自分の意見を表現できるようになる。また、広い範囲で、慣用句・四字熟語・諺・方言を理解できるようになる。ハングル検定準2級(TOPIK4級)の合格、そして学習を継続すれば、韓国での就職や大学院進学ができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第3類	ベーシック英語	本授業は、入学時のプレースメントテストにおいて英語力がCEFR A1.2(英検3級相当)に達していないと判定された者を対象に開講され、英語の基本的な事項の学び直しをするとともに、英語の適切な学習方法を身に付けることを目的とする。いわゆる「リメディアル教材」を用いて、基本的な文法や表現を復習しながら、聞く・話す・読む・書くの活動を行い、それによって、4技能においてA1.2レベルに到達することを目標とする。本授業の履修を指示された者は、本授業の履修終了後に「英語ⅠA・ⅠB」を同時履修する。	
	英語コミュニケーション	本授業は、英語4技能のうち「聞く・話す」に重点を置き、口頭でのコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。授業での活動は、口頭でのペアワークやグループワーク、発表や質疑応答などが中心となるが、話すための準備や、話した後のまとめとして読む活動や書く活動も適宜取りれる。入学時プレースメントテストの成績に応じたクラス編成に従い、受講者各自が履修開始時よりもスムーズに、英語でやりとりができるようになることを目標とする。なお、本授業は、教育職員免許状取得の要件となる「外国語コミュニケーション」能力に対応した科目である。	
	英語ⅢA	本授業の目的は、「英語ⅡA・ⅡB」での学修を踏まえ、CEFR C1レベルの英語検定試験に対応できるような英語運用能力を身に付けることである。具体的には、TOEICなどの出題形式を意識した取り組みを通して、ビジネス分野や学術分野での専門的な語彙力の増強や、一定程度の内容を持った専門的英文の正確な理解、パラグラフ構造の理解、論理的意見の聴取と表明などができるようになることを目標とする。受講者としては、「英語ⅡA・ⅡB」で上位クラスに所属していた者、CEFR B2相当の能力を保持している者を想定している。	
	英語ⅢB	本授業の目的は、「英語ⅡA・ⅡB」での学修で到達した話す能力のレベルを維持し、さらに伸ばすことである。具体的には、専門的あるいは高度な内容の話題を扱った英文を読んだり、口頭説明を聞いたうえで、その内容について口頭で要約する、意見を述べる、他者の意見を聞き質問する、議論をする、議論を整理する、などの活動を通して、発展的な英語コミュニケーション能力を獲得することを目標とする。受講者としては、「英語ⅡA・ⅡB」で上位クラスに所属していた者、CEFR B2相当の能力を保持している者を想定している。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保 健 体 育 科 目	スポーツ実技A	各種スポーツ競技を通して、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学ぶ。到達目標は、(1)各種スポーツの意義や重要性を理解する、(2)身体の可能性や限界を理解し、日常生活に活かすことができる、(3)他者を理解し、円滑なコミュニケーションに活かせる、(4)各種スポーツの基本的な技術を習得する、(5)各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる、とする。種目は、主として屋内運動種目を中心に実施する。初回のガイダンスと第2回目の体力測定後に、スポーツ活動を実践し、基本技術・ルール等を学ぶ。	
	スポーツ実技B	本授業では、自身に適した運動プログラムを立案し心身の健康や体力を高めるための実践方法を学ぶ。具体的には、全身持久力・筋力・柔軟力を高める運動を主として行う。運動は、特殊な機器を用いたものから、自宅でもできる運動を含めて行う。自身の体力水準に応じて適切に種目・強度・頻度等を選択し、運動プログラムを作成する。到達目標は、(1)健康と体力の意義や重要性を理解する、(2)各種トレーニングを自らが実際に実践できる、(3)心と身体をメンテナンスできる知識や能力を身に付け、実践できる、(4)新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる、とする。	
	体育講義	健康や体力維持・増進のために行う運動・スポーツをより効果的にするために、運動・スポーツの科学的理論の理解が必要である。本授業では運動・スポーツ生理学に関わる理論を中心にわかりやすく解説する。本授業では、(1)運動の健康に対する効果の重要性を理解できる、(2)健康に関連する体力(身体組成、筋力、全身持久力)と生理的なしくみの関係性を理解できる、(3)健康・体力の維持増進のための運動プログラムを作成できる、ことを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留 学 科 目	海外研究A	本学の国際交流協定校において夏期に実施される海外研修（現地研修）と事前学習及び事後学習からなる。参加者は、事前学習として現地の文化、歴史、言語、生活様式に関する基礎知識と基礎的な外国語運用能力を身に付けるとともに、研修中に行う研究の計画案を作成する。現地研修は、外国語集中講座及び現地の文化、歴史、言語、生活様式に関する講義の3～4週間からなる。なお、現地研修終了後は、現地研修に基づいた研究成果を研究報告書としてまとめ、発表及び提出する。研究報告書及び事前学習への参加状況と現地での活動で総合的に評価する。本授業では、現地の社会的、文化的及び言語的な側面を理解し、その概要を伝えることができるようになることを目標とする。	
	海外研究B	国際交流協定校及び協定校附属校（語学堂を含む）が募集する、春休み若しくは夏休みに実施される現地プログラムに参加することによって、外国語及び文化、歴史、生活様式などを現地研修を通して学ぶ。異文化を直接体験し、グローバルな視野と積極的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。なお、協定校が提供するオンライン短期留学も対象とする。対象となる短期留学に参加した結果を国際交流課で確認し、参加プログラム授業時間が合計2,700分以上の者に2単位を付与する。	
	海外研究C	国際交流協定校及び協定校附属校（語学堂を含む）が募集する、春休み若しくは夏休みに実施される現地プログラムに参加することによって、外国語及び文化、歴史、生活様式などを現地研修を通して学ぶ。異文化を直接体験し、グローバルな視野と積極的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。なお、協定校が提供するオンライン短期留学も対象とする。対象となる短期留学に参加した結果を国際交流課で確認し、参加プログラムの授業時間が合計1,350分以上2,700分未満の者に1単位を付与する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国人及び帰国生科目	日本語ⅠA	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、聴講の日本人学生と協働し、日本語の4技能を統合したプロジェクトワークを行う。具体的には、まず、若者言葉・方言・曖昧表現・オノマトペ等の「ことば」をテーマに関連した教材の視聴や読解を行い、ディスカッションを行う。次に、チームごとに、受講生自身が問いを立て、深く調べ、発表・報告を行う。また毎回内省を書くことで、自身の日本語表現を客観的に見直していく。この一連の過程により、日本語を多角的に捉えると同時に、実践的でアカデミックな日本語力を身に付けることを目標とする。	
	日本語ⅠB	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、聴講の日本人学生と協働し、日本語の4技能を統合したプロジェクトワークを行う。具体的には、「留学生の目から見た実際の日本」をテーマに、雑誌作成や動画作成等の創作活動を行う。チームで企画を立案し、雑誌作成においてはアンケートやインタビュー調査の実施、記事執筆、編集及び発表・報告を、動画作成においては脚本作成、出演、撮影、演出、編集及び発表・報告を行う。この過程で実践的な日本語力を身に付けると同時に、日本文化に関して見識を深め、自身なりの意見を効果的に相手に伝えられるようになることを目標とする。	
	日本語ⅡA	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、アカデミックな日本語のライティングをテーマに、日本の大学で学ぶ留学生に必要な日本語運用能力を身に付けていく。まず、教材の読解を通し、文法・漢字・語彙・表現を学び、理解力を高める。さらに、練習を通して論理的にレポートが書けるよう練習していく。具体的には、説明・定義・分類・比較対照・因果関係等の文構造・文章構造について、課題を通じて学ぶ。本授業においては、論理的な思考方法を身に付け、論理的な文章の展開方法を意識して文章の構成を考えられるようになることを目標とする。	
	日本語ⅡB	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、アカデミックな日本語のライティングをテーマに、日本の大学で学ぶ留学生に必要な日本語運用能力を身に付けていく。具体的には、論説文の特徴をつかんだうえで、要約・引用・長文展開の方法について学ぶ。さらに、レポート作成の手順について学び、環境問題・就職活動・少子化等の課題に沿って論理的な文章を書く練習を行う。また、書いたものを協働作文活動により推敲していく。これらの過程を通し、日本語による文章の論理的な展開を身に付け、読み手を意識し、首尾一貫した説得力のある文章を書けるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基盤 科目	心理学概論	人間の行動とその心理過程を科学的に理解するための基礎知識を身に付ける。そのために、人間が外界の情報をどのように処理し、その過程が人間行動にどう影響するのかを、実証的な研究知見をもとに講義する。こうしたアプローチを通して、人間を研究対象とする様々な学問分野において暗黙裡に仮定されている人間観を問い直す。本授業においては、心理学の対象や方法の特徴とともに、心理学の理論や仮説を実証的なデータに基づいて説明できること、また身の回りの様々な人間行動を、心理学の概念や用語と結び付けて解釈できるようになることを目標とする。	
	臨床心理学概論	授業のテーマは臨床心理学入門である。臨床心理学は、心理的問題の解決や改善に寄与することを目的とした専門領域であり、その内容は多岐にわたる。この授業を履修することにより、臨床心理学の成り立ち、心理的問題に関する様々な心理学的アセスメントの理論と方法、援助・介入技法としての代表的な心理療法の理論と技法及びそれらの基盤となる異常心理学などについて、基礎的な知識を身に付けることができる。本授業においては、臨床心理学の目的と成り立ちを理解するとともに説明できること、臨床心理学の代表的な理論を説明できること、臨床心理学の基本的な介入技術を体験することで説明できることを目標とする。	
	社会学概論	授業のテーマは社会学入門である。「社会学的想像力」とは、個人の身近な事柄を出発点として、社会的な制度やその歴史、その様々な問題点などについて検討する能力を指す。本授業では、受講者の身近な事柄や日常的な経験から出発して考えたり調べたりする課題に取り組むとともに、それに関連する講義を聴講する。講義のトピックは、制度、社会的事実、社会構造とその機能、行為規範、分業と役割、集団と組織、コミュニケーション、コンフリクト、社会の再生産と社会変動などである。本授業においては、受講者が身近な事柄や日常的な経験から社会全体の公的な問題について考える社会学的想像力を身に付けることを目標とする。	
	社会調査基礎論	社会調査とは何か、社会調査にはどのような意義があるかといった基礎的な事項を出発点として、資料やデータの収集から分析・報告までの社会調査の全過程に関する基本的事項を解説する。本授業では以下の事項を扱う。(1)社会調査とは何か、(2)社会調査の歴史、(3)社会調査の種類と方法、(4)社会調査の倫理、(5)社会調査の種類と実例、(6)国勢調査等の公的統計の種類と利用、(7)メディア上で出会う様々な調査結果とその読み方、などである。本授業では、これらの知識を身に付けるとともに、その知識を用いて不適切な社会調査の問題点を具体的に指摘できるようになることを目標とする。	



授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門基盤科目	健康と身体活動の基礎A	<p>人生を健康的に過ごすためには運動・スポーツは重要な要因となる。一方、体罰・ハラスメントなどの問題もあり、運動・スポーツを通じて健康でより良い社会を作っていくためには、「運動・スポーツはどうあるべきか？」を考え続けることが必要である。本授業では、受講生は「運動」と「スポーツ」の存在意義について説明できるようになること目標とする。あわせて、本授業は、中学校・高等学校における保健体育を教授するための基礎的態度及び知識等を修得することも目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 坂本譲/5回) 健康科学的視点から、現代における「運動」と「スポーツ」が果たすべき役割を概説する。</p> <p>(7 穴戸隆之/5回) スポーツ・運動指導の科学的視点から、現代における「運動」と「スポーツ」が果たすべき役割を概説する。</p> <p>(13 岡崎勘造/5回) 発育発達の科学的視点から、現代における「運動」と「スポーツ」が果たすべき役割を概説する。</p>	オムニバス方式
	健康と身体活動の基礎B	<p>超高齢社会を迎えた現代において、健康寿命を延伸することは重要な課題である。運動・スポーツは健康寿命の延伸に寄与するものの、日常的に運動を実施する者が少ない。運動を実施し、一人一人が自らの健康寿命を延伸するために、運動の効果、効率的な運動の仕方、運動を実施しやすい社会のあり方についての基礎知識を獲得しておくことは必要である。本授業では、高橋、吉田、天野が、それぞれ、スポーツ生理学、運動方法学、スポーツマネジメントの科学的視点から(各5回)心身の健康と運動・スポーツの関係を解説する。本授業では、運動実践の障害を取り除き健康寿命を延伸できる社会のあり方を説明できるようになることが目標である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 高橋信二/5回) 運動・スポーツと身体：筋肉の収縮の仕方、有酸素運動と無酸素運動、運動処方。</p> <p>(16 吉田雄大/5回) 運動・スポーツの分析：身体動作の分析、スポーツパフォーマンスの測定と評価、スポーツデータの分析と活用。</p> <p>(11 天野和彦/5回) スポーツマネジメント：学校・クラブ活動のマネジメント、プロフェッショナルスポーツ、地域でのヘルスプロモーション。</p>	オムニバス方式
	研究方法科目	基礎統計学	<p>統計データを分析するために必要な推測統計学の基礎的な知識を学ぶ。本授業においては以下の事項を扱う。(1)基本統計量、(2)確率論の基礎、(3)正規分布表の読み方と使い方、(4)サンプリング理論、(5)推測統計学の基礎(推定及び仮説検定の考え方)、(6)信頼区間、(7)平均の差のt検定、(8)比率の差の検定、(9)クロス表の独立性の検定、(10)相関係数、(11)相関関係と因果関係の違い、(12)擬似相関、(13)変数のコントロールとその応用(偏相関係数、3重クロス表)などを踏まえ、社会調査データの分析結果の読解ができること、社会調査データの基礎的な分析を行うことができることを目標とする。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	研 究 方 法 科 目	心理学研究法	<p>授業のテーマは、心理学の研究法の基礎を学び、種々の測定法の原理を理解することである。心理学の研究には様々な方法や測定法が使われているが、この講義では、心理学の研究で欠かせない代表的な方法例と、そこで用いられる測定法がどのような原理や考え方に基づいて考案されたのかを解説する。本授業では、(1)実証科学としての心理学における様々な研究法についての理解と基礎的な用語の説明、(2)実験法における測定技法及びデータ分析法の特徴の理解と具体的なケースへの応用、(3)観察法、面接法、検査法、質問紙法などの手法の実践と結果のまとめ、(4)研究法に潜む倫理上の問題の発見、の4点ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 福野光輝・6 櫻井研三/1回)(共同) オリエンテーション資料及びシラバスによるガイダンスを行う。本授業の概要と運営方法について履修上の注意も含めて解説する。</p> <p>(6 櫻井研三/7回) 因果関係とその実証、独立変数・従属変数・剰余変数、心理物理学的測定法、信号検出理論、モデル論的研究法、生理心理学の技法と脳イメージング、発達心理学と動物実験の技法を解説する。</p> <p>(1 福野光輝/7回) 心理学におけるデータの性質、観察法の基礎、面接法の基礎、検査法の基礎、質問紙法の基礎1、質問紙法の基礎2、研究倫理について解説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		心理学統計法	<p>心理学で用いられる代表的な統計手法について、その基礎と応用を学修する。授業は、実験法・調査法(検査法)において測定・収集されたデータを用いて、実際にMicrosoft Excel、SPSS等のアプリケーションを使ってデータを扱いながら進められる。学生自らが扱っているデータの性質を的確に捉え、適切な統計手法を用いて分析することができるようになることが目標である。以下の分担によるオムニバス方式である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 加藤健二/8回) 実験法によるデータの分析：記述統計による要約(グラフによる要約、代表値、散布度、分布)、推測統計による推定(区間推定)、統計的検定(t検定、分散分析)。</p> <p>(9 萩原俊彦/7回) 調査法・検査法によるデータの分析：記述統計(相関、回帰)、統計的検定(<math>\chi^2</math>乗検定)、多変数の分析(因子分析)。</p>	オムニバス方式
		社会調査法	<p>社会調査によってデータを収集し、分析し得る形にまで整理していく具体的な方法について、量的調査を中心に学ぶ。本授業においては、(1)社会調査の目的、(2)量的調査と質的調査、(3)量的調査の方法、(4)質的調査の方法、(5)調査方法の決め方、(6)調査の企画と設計、(7)仮説の構築、(8)サンプリング法、(9)質問文・調査票の作り方、(10)調査の実施方法、(11)調査データの整理と処理、(12)社会調査の倫理等の事項を扱う。本授業では、様々な社会調査法の特徴と利点・欠点を踏まえ、どのような場合に、どのような社会調査法が適切であるか判断できるようになることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	研 究 方 法 科 目	社会統計学	授業のテーマは統計学と統計分析の基礎である。基礎的な事柄についての講義とともに、授業中にソフトウェアを実際に使用してデータ分析を行うことで、分析法の理解を深める。具体的なトピックは、データセットの作成と統計分析ソフトウェアの操作、変数の分布の把握、クロス集計表、相関係数、平均値の比較、統計的推測、因果関係の推定、表やグラフ作成の基本的ルールなどである。本授業においては、社会調査データの分析に必要な統計学の基礎を身に付けるとともに、官庁統計や各種の調査報告などを読んだり再分析して、その内容を批判的に吟味し、各自の研究に結び付けられるようになることを目標とする。
		多変量解析	社会調査データの分析で用いる多変量解析の方法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを学ぶ。以下の事項を扱う。(1)多元配置分散分析、(2)重回帰分析とその応用、(3)2項及び多項ロジスティック回帰モデル、(4)マルチレベル分析、(5)因子分析・主成分分析、(6)構造方程式モデル、(7)因果推論の諸技法(反実仮想的因果推論の考え方、RCT、傾向スコア、パネルデータ分析など)、などである。これらを踏まえ、多変量解析を用いた分析結果を適切に読めるようになること、多変量解析を用いて社会調査データの分析を行うことができるようになることを目標とする。
		運動学研究法	運動・スポーツ科学では、身長・体重や時間などの物理的な量ばかりではなく、目には見えない「体力」や「意欲」なども対象とすることが多く、様々な研究の手法が考案されている。本授業では、運動・スポーツ科学の研究に関わる基礎的な知識及びスキルを理解、習得することを目標とする。坂本が実験的研究について、岡崎が観察的研究についての研究法を教授する。また、授業では受講生自身が興味を持った研究を検索・分析し、発表する機会も設ける。そのため、論文レビューの仕方やプレゼンテーションスキルなど、今後のスポーツ・科学の研究を進めていくために必要なスキルの獲得も目指す。  (オムニバス方式/全15回)  (5 坂本譲・13 岡崎勘造/1回)(共同) 授業の進め方、成績評価になどについてのガイダンス。運動・スポーツで扱う研究領域の紹介。  (5 坂本譲/7回) 実験研究(介入研究)の紹介、因果関係の推論、研究の概要(テーマの設定、論文レビューを通じての仮説・問題の設定)、方法の定式化(対象者の選定、測定方法)、結果と考察の構成。  (13 岡崎勘造/7回) 観察研究の紹介、相関関係と因果関係について、研究の概要(テーマの設定、論文レビューを通じての仮説・問題の設定)、方法の定式化(対象者の選定、測定方法)、結果と考察の構成。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 方法 科目	運動学統計法	<p>実験や調査により得られたデータから新しい発見をするためには、データを分析する必要がある。同様に、適切にデータを分析するためには、事前に実験・調査を計画しておくことも非常に重要である。計画が十分ではなく適切に分析されなければ、知りたいことが分からないばかりではなく誤った結論に辿り着いてしまう。本授業では、運動・スポーツ科学の研究で用いられる実験計画法と統計解析法の基礎を理解し、自身の興味のあるテーマについて実験計画を作成し、データ分析ができるようになることを目的とする。高橋が実験計画法と基礎的な統計解析について、吉田が応用的な統計解析について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 高橋信二・16 吉田雄大/1回)(共同) 授業の進め方、成績評価などについてのガイダンス。運動・スポーツで使用頻度の高いデータ処理法の紹介。</p> <p>(2 高橋信二/7回) 実験計画の基礎、データの種類と記述統計(代表値、散布度)、仮説検定のロジック、基礎的な線形モデル(t検定、重回帰分析、分散分析、共分散分析)。</p> <p>(16 吉田雄大/7回) 因子分析、構造方程式モデリング、一般化線形モデル、マルチレベルモデル。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	心理実験	<p>テーマは、実験心理学における基本的なデータ収集技法の体験的学習である。学生は、実験者及び実験参加者となって心理学の代表的実験の追試に参加し、データの収集、統計的分析の後、考察結果をレポートにまとめて提出する。その後の添削と修正レポートの提出などを通して、心理実験の実施、データ分析、結果考察等の手続きの理解と、心理学論文の一般的書式に基づいた適切なレポート作成のスキルを身に付けることが目標である。実習は、精神物理学測定法(加藤・櫻井・井川)のみ全体で行い、その後は3グループに分かれて、ミュラーリヤー錯視(櫻井)、記憶研究法(加藤)、プライミング効果(井川)を順次3週間ごとにローテーションして実施する。</p> <p>(オムニバス方式・共同/全15回)</p> <p>(3 加藤健二/15回) 初回オリエンテーション(1回)、課題1「精神物理学測定法」(3回)、その後実習期間中の振り返り(2回)、計6回は共同で実施。課題「記憶研究法」(9回)記憶実験の実施、データ分析、レポート作成法を指導し、その後提出されたレポートの添削、返却、再添削を行う。1グループ3回の指導を3グループ行う。</p> <p>(6 櫻井研三/15回) 初回オリエンテーション(1回)、課題1「精神物理学測定法」(3回)、その後実習期間中の振り返り(2回)、計6回は共同で実施。課題「ミュラーリヤー錯視」(9回)代表的知覚現象であるミュラーリヤー錯視について、実験の実施、データ分析、レポート作成法を指導し、その後提出されたレポートの添削、返却、再添削を行う。1グループ3回の指導を3グループ行う。</p> <p>(12 井川純一/15回) 初回オリエンテーション(1回)、課題1「精神物理学測定法」(3回)、その後実習期間中の振り返り(2回)、計6回は共同で実施。課題「プライミング効果」(9回)代表的認知現象であるプライミング効果について、実験の実施、データ分析、レポート作成法を指導し、その後提出されたレポートの添削、返却、再添削を行う。1グループ3回の指導を3グループ行う。</p>	オムニバス方式・共同
専 門 科 目	実験・実習科目		

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実験・実習科目	心理的アセスメント	<p>心理学における基本的なデータ収集と分析技法を修得する。具体的には、各種心理検査や観察、尺度構成といった心理的アセスメント場面でよく用いられる技法を取り上げ、調査者及び回答者となってデータ収集を行い、統計的手法を用いてデータ分析を行い、その結果をレポートにまとめるという実習を行う。この授業では、心理学における基本的なデータ収集法について説明し、それを実践できるようになること、また文献や収集されたデータからの情報を、心理学研究論文の一般的な書式に基づいて的確にまとめられるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式・共同/全15回)</p> <p>(1 福野光輝/15回) 初回オリエンテーション(1回)、課題1「印象形成」(3回)、その後実習期間中の振り返り(2回)、計6回は共同で実施。 課題「観察法：事象見本法」(9回)事象見本法による観察データ収集の実施、データ分析、レポート作成法を指導し、その後提出されたレポートの添削、返却、再添削を行う。1グループ3回の指導を3グループ分行う。</p> <p>(9 萩原俊彦/15回) 初回オリエンテーション(1回)、課題1「印象形成」(3回)、その後実習期間中の振り返り(2回)、計6回は共同で実施。 課題「態度尺度構成法」(9回)代表的な態度尺度であるリッカート法による尺度構成を行う。項目の収集及びデータの収集、項目分析、レポート作成法を指導し、その後提出されたレポートの添削、返却、再添削を行う。1グループ3回の指導を3グループ分行う。</p> <p>(10 平野幹雄/15回) 初回オリエンテーション(1回)、課題1「印象形成」(3回)、その後実習期間中の振り返り(2回)、計6回は共同で実施。 課題「心理検査法」(9回)代表的な心理検査である新版TEG3東大式エゴグラム、性格5因子尺度(NEO-FFI)、内田クレペリン検査について、検査の実施、結果の修正と比較、レポート作成法を指導し、その後提出されたレポートの添削、返却、再添削を行う。1グループ3回の指導を3グループ分行う。</p>	オムニバス方式・共同
	社会調査実習A	<p>テーマは社会調査の実践である。質問紙法に基づく社会調査を実際に経験し学習する実習科目である。調査の企画から調査の実施にまたがる社会調査の過程について、実際の体験を通じて学習する。講義全体のテーマを設定し、それに基づいた先行研究の検討、対象者の選定、仮説の構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、サンプリング、調査票の配布・回収までをグループワークで行う。本授業においては、社会調査の全過程のうち、調査の企画から実施までを実際に行うことにより、社会調査の基本のうち調査の企画から実施までを体験的に習得することを目標とする。</p>	
	社会調査実習B	<p>テーマは社会調査の実践である。質問紙法に基づく社会調査を実際に経験し学習する実習科目である。調査票の回収から報告書の作成までの過程について、実際の体験を通じて学習する。「社会調査実習A」で、設定したテーマに基づいた調査を実施するところまでは行っているため、それに引き続き、調査票のエディティング及びコーディング、データ入力、クリーニング、データ分析、報告書の作成までをグループワークで行う。本授業においては、社会調査の全過程のうち、調査実施後のデータ加工から報告書作成までを実際に行うことにより、社会調査の基本のうち調査実施後のデータ加工から報告書作成までを習得することを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	実 験 ・ 実 習 科 目	<p>運動学実験実習A</p> <p>心身の健康を維持増進するために運動・スポーツの実施は重要な役割を担っている。運動・スポーツを科学的に測定・評価することは、運動を実施、指導する際に必要な知識・スキルとなる。本授業では、運動・スポーツ科学分野で頻繁に使用される測定方法について、その測定原理を理解し、実際に測定したデータを分析・まとめるレポートの作成ができるようになることを目標とする。具体的には、吉田がビデオカメラを利用した動作解析やゲームパフォーマンス分析、坂本が運動や環境に対する生理的応答やストレス応答、岡崎が身体活動量(運動量)と形態測定(身長、体重、体脂肪率など)について実習する(各5回)。</p> <p>(16 吉田雄大/15回) 動画を使用した動作解析やチームパフォーマンスの定量化をテーマとする授業で中心的な指導の役割を担う。その他のテーマの授業時では、補助的な指導やレポート添削等を担当。</p> <p>(5 坂本譲/15回) 体温や血圧、心拍数、免疫グロブリンなどの生理的応答やストレス応答をテーマとする授業において中心的な指導の役割を担う。その他のテーマの授業時では、補助的な指導やレポート添削等を担当。</p> <p>(13 岡崎勘造/15回) 質問紙や加速度計などを用いた身体活動量(運動量)の測定と形態測定(身長、体重、体脂肪率、皮脂厚)をテーマとする授業において中心的な指導の役割を担う。その他のテーマの授業時では、補助的な指導やレポート添削等を担当。</p>	共同
		<p>運動学実験実習B</p> <p>心身の健康を維持増進するために運動・スポーツの実施は重要な役割を担っている。運動・スポーツを科学的に測定・評価することは、運動を実施、指導する際に必要な知識・スキルとなる。本授業では、運動・スポーツ科学分野で頻繁に使用される測定方法について、その測定原理を理解し、実際に測定したデータを分析・まとめるレポートの作成ができるようになることを目標とする。具体的には、吉田が筋力と骨格筋の活動の測定(筋電図)、坂本が運動強度とエネルギー消費量の測定、天野が質問紙を用いた「スポーツや健康に対する意識」などの調査・分析法について実習する(各5回)。</p> <p>(16 吉田雄大/15回) 筋電図を使用した骨格筋の活動の記録や筋力測定をテーマとする授業において中心的な指導の役割を担う。その他のテーマの授業時では、補助的な指導やレポート添削等を担当。</p> <p>(5 坂本譲/15回) 最大酸素摂取量(運動強度の指標)やエネルギー消費量といった呼吸代謝分析をテーマとする授業において中心的な指導の役割を担う。その他のテーマの授業時では、補助的な指導やレポート添削等を担当。</p> <p>(11 天野和彦/15回) 質問紙の作成・調査をテーマとする授業において中心的な指導の役割を担う。その他のテーマの授業時では、補助的な指導やレポート添削等を担当。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	演 習 科 目	基礎演習A	論文(日本語)読解に焦点あて、心理行動科学における研究の基礎に触れることがテーマである。20人程度のグループに分かれて、担当教員が事前に案内した論文を読解する。論文中の心理行動科学の理論や概念を適切に把握し、自分の考察を加えて文章にまとめ、それらを口頭で報告し、議論する力を養うことを中心に、併せて、図書館利用や文献検索法、報告書作成の基礎及び研究倫理を含めた研究リテラシーなどについて学修する。各回の授業においては、受講者は少なくとも一度は報告者となり発表を行い、また受講者全員が積極的に発言する機会を設ける。アクティブ・ラーニングによって主体的学びを推進し、「調べる・考える・発信する」という、研究実践の基礎を総合的に理解することが目標である。	
		基礎演習B	心理学や行動科学の実証研究の基礎となるデータの収集と取扱いの初歩の実践的学修をテーマとする。この演習では単なる読み書きではなく、データを取り扱う際に求められる慎重かつ真摯な態度と初歩的技法を身に付けるために、代表的な心理学実験と質問紙調査を題材として結果をレポートにまとめ、内容をプレゼンテーションのツールを利用しながら口頭で発表するまでを受講者に実際に体験してもらおう。本授業では、(1)実験や調査による基本的なデータ収集、(2)そのデータの分析と保全及びレポートの作成、(3)レポートをもとにデータが示す範囲で自分の見解をまとめて発表する技法の獲得、の3点ができるようになることを目標とする。	実験・実習 6回 (9h) 演習 9回 (13.5h)
		演習A	心理行動科学科の各専門領域において、学生が自ら研究を行うために必要な専門知識と技能を修得する。「演習A」においては、まず自分自身の興味関心に基づいて、関連する先行研究を探し出し、それらを批判的に読み、その内容を他者に分かりやすく伝える訓練を行う。そのうえで、自らの研究関心を当該領域の理論と概念を用いて表現し、これまでの研究の流れの中でどう位置付くのかを見極め、リサーチクエストと仮説を設定する。本授業では、研究活動に必要な技術のうち、研究課題を発見する力、情報を収集する力、情報を整理する力、読解力を身に付け、これらを発揮できるようになることを目標とする。	
		演習B	心理行動科学科の各専門領域において、学生が自らの研究を行うために必要な専門知識と技能を修得する。「演習A」での学修を踏まえ、自分のリサーチクエストに基づいて、実験や調査を計画し、データ収集を行う。次いで得られたデータを分析し、仮説検証を行う。分析結果を考察し、その領域で一般的に用いられている書式でレポートにまとめる。最後に研究発表を行い、質疑応答を行うことで、自分自身の研究に対する理解を深めるとともに、卒業研究につなげていく。本授業では、研究活動に必要な技術のうち、実験や調査を計画する力、データ分析力、レポート執筆力、研究発表する力を身に付け、自ら研究を推進できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	演 習 科 目	特殊研究	4年次の卒業研究に向け、3年次「演習B」だけでは実践的学修が不十分になると考えられる実験系及び調査系の研究テーマを構想する学生のうち、より一層の研究遂行能力、データ分析力、レポート執筆力を養うことを目標とする。「演習B」と同一の担当者により、実験及び調査の準備、実施、データ分析、レポート作成といった実践的作業について、実験刺激あるいは質問紙の作成、実験機器・専門的アプリケーション・統計分析ソフト等の具体的な操作を含めて指導される。2年次の各種実習科目、3年次「演習A・B」及び4年次卒業研究へと進む実習系学修をさらに補強することを希望する学生向けの科目である。	
		文献講読A	心理学又は行動科学に関する英語文献を読む技術を修得する。この文献講読を通して、心理学や行動科学の基礎知識と研究動向を把握するとともに、文献の内容を批判的に吟味し、取り上げられている研究テーマの今後の可能性と限界を見極める。そのために、対象とする文献の指定された箇所を受講者全員が読んだうえで毎回の授業に参加し、その内容についての議論に比重を置いた演習を行う。本授業においては、心理学又は行動科学に関する英語文献を素早く読んで概要を把握するとともに、その論理展開を追い、その内容について批判的に考察し、建設的な提言ができるようになることを目標とする。	
		文献講読B	最新の科学的知識を得るためには論文の講読が必要であり、より多くの知識を得るためには論文の主要な部分がまとめられた「Abstract(概要)」を読むことが効率的である。国際的に大きなインパクトを持つ論文ばかりではなく、国内で発表される学術論文の多くも「Abstract」は英語で記述されているため、英語で「Abstract」を理解できることが望ましい。本授業では、受講生各自が自身の興味ある分野の最新の科学的知識を獲得できるように、データベースを利用した論文検索の方法も含め、多様な分野の「Abstract」の講読を通じて、学術論文を読解できるようになることを目標とする。	
		卒業研究A	心理行動科学科の各専門領域において卒業研究を行う。具体的には、「演習A」及び「演習B」における学修で身に付けた技能を用いて、自ら研究テーマを設定し、関連する先行研究を概観し、批判的に検討する。そのうえで、当該領域において重要とされる問題関心のうち、未解決の問いを見極め、リサーチクエスション及び仮説を設定する。また、発表会や研究指導において自らの研究の進捗状況について十分に説明するとともに議論を行う。本授業では、「演習A」及び「演習B」で培った研究活動に必要な技能を実践して、自らの研究を主体的に進展させることを目標とする。	
		卒業研究B	心理行動科学科の各専門領域において卒業研究を行う。具体的には、「演習A」及び「演習B」、「卒業研究A」における学修を踏まえ、自ら設定した仮説を検証するために調査や実験などを計画し、実際にデータ収集を行う。得られたデータの分析結果に基づいて、その領域で一般的に用いられている書式に沿って研究論文を執筆する。また、発表会や研究指導において自らの研究の進捗状況や成果について十分に説明するとともに、議論を行う。本授業では、「演習A」及び「演習B」で培った研究活動に必要な技能を用いて、「卒業研究A」で進めてきた自らの研究をさらに進展させ、研究論文として完成させることを目標とする。	



授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	臨 床	障害者・障害児心理学	本授業では、障害の種別ごとに各々の心理特性について概説する。具体的には、身体障害(視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害、肢体不自由など)、知的障害、神経発達症(発達障害: 自閉スペクトラム症、限局性学習障害、注意欠陥多動性障害など)、等の特徴と心理社会的課題、障害者・障害児本人だけでなく家族を含めた必要な支援のあり方としてどのようなものがあるのか等について講義する。本授業の目標は、各々の障害の特徴と心理社会的課題について説明できること、障害者・障害児とその家族に対する支援について説明できることである。なお、本授業は講義形式で行われる。	
		人体の構造と機能及び疾病	人体の身体構造及び心身機能の基礎知識を獲得し、それを基に様々な疾病や障害についての理解を深める。そのためにまず遺伝子、細胞、各器官の構造と働きを講義する。次いで、炎症や感染、循環障害といった疾病と障害についての知識を得る。さらに、身体疾患に伴う精神症状に対して精神的ケアが必要な疾患(がんや心筋梗塞など)や身体症状を呈する精神疾患(うつ病や不安症)など、心理的支援が重視されるがんや難病について知識を得る。本授業においては、身体構造及び心身機能、疾病・障害を相互に関連付けて理解できるようにすることを目標とする。	
		健康・医療心理学	健康の保持増進及び疾病の予防と治療及び回復に関連する心理学的知見を取り上げる。具体的には、ストレス、性格と健康、感情的問題、自殺、トラウマ、依存症、糖尿病、がんなどを取り上げ、健康心理学・医療心理学の視点から解説する。心理学的要因が生物レベルでどのように影響するかというミクロな視点から、心理学的な健康政策の構築が健康/不健康にどう影響するかというマクロな視点まで、多層なレベルでの理解を促す。本授業においては、健康なこころ・身体・社会づくりに心理学の知見をどのように活かすことができるか理解すること、身近な健康や医療に関する現象を心理学の視点で分析・解釈できるようにすることを目標とする。	
		福祉心理学	公認心理師の職域の一つである福祉分野における心理学的活動の基礎知識を獲得する。福祉とは、広く言えば「人を幸せにする営み」である。診察室の中で相談に応じるような心理学的支援と異なり、福祉心理学の実践においては、人々の生活の中で心理学的支援を行うことになる。ここでは、公認心理師の重要な職域の一つである福祉分野における心理学的支援について、その概要を講義する。本授業においては、社会福祉の理念とその歴史、制度、法律などについて知識を得るとともに、児童や家庭、高齢者、障害者を対象とした福祉現場での心理学的支援の理論と実践について理解することを目標とする。	
		精神疾患とその治療	本授業では精神疾患・精神障害について理解し、その治療や支援の方法について講義する。精神医学の総論について基礎的な知識を概説し、さらに代表的な精神疾患について、その概念、病態、症状などを詳説する。薬物治療や心理療法などの治療についても解説しつつ、脳(身体)・心理(こころ)・社会的な視点それぞれからの対応の必要性を検討する。本授業においては、精神科医療の歴史と精神疾患、精神障害を取り巻く現状の課題を説明できること、代表的な精神疾患の症状や病態、経過を説明できること、代表的な精神疾患に対する治療や支援について例を挙げて説明できるようにすることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	臨 床	衛生公衆衛生学	<p>公衆衛生学は、衛生に関する理論や技術体系を基に、社会の中での組織化された努力を通じて人々の疾病を予防し、さらには健康を増進することを目的とする総合的な科学技術である。本授業では、疾病予防や健康増進に関する公衆衛生活動、特に統計指標、理論、健康施策についての理解と基礎知識の習得を目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 坂本譲・112 伊藤常久/1回)(共同) ガイダンス</p> <p>(5 坂本譲/7回) 様々な集団の健康状態を把握するための方法と環境等の様々な要因に起因する健康破壊の現状及びその予防・防止施策について概説する。</p> <p>(112 伊藤常久/7回) 生涯の様々なステージにおける健康問題の変遷と健康増進のための理論や保健医療制度・対策について概説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		学校保健Ⅰ	<p>「学校保健Ⅰ」では、児童・生徒が健全な発育発達を遂げるためにどのように対応すべきか、その方法を考えることができるよう児童・生徒を取り巻く様々な健康課題を取り上げる。本授業では、学生が、児童・生徒を取り巻く様々な健康課題と学校保健の在り方について理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 岡崎勘造・113 佐々木健太/1回)(共同) ガイダンス</p> <p>(13 岡崎勘造/7回) 児童・生徒の精神的・身体的健康と関わる生活習慣等に焦点をあて、今日的課題を展開するとともに、学校現場で活かすために必要な保健教育の方法を概説する。</p> <p>(113 佐々木健太/7回) いじめ、不登校、不定愁訴等の心のケアに焦点をあて、学校における保健管理の在り方について概説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		学校保健Ⅱ	<p>「学校保健Ⅱ」では、児童生徒の健康問題を社会環境の中で捉えることができるよう学校における保健・安全管理の目的や意義について学ぶ。本授業では、学生が、健康問題を社会環境の中で捉えることができるよう学校における保健・安全管理の目的や意義を理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 岡崎勘造・114 相楽直子/1回)(共同) ガイダンス</p> <p>(13 岡崎勘造/7回) 災害時の健康管理等をQuality of lifeや生活習慣に焦点をあてて展開するとともに、学校における安全管理の目的と意義を社会環境との関わりから概説する。</p> <p>(114 相楽直子/7回) 学校保健の領域や制度、地域連携などの組織活動、応急処置などの学校安全について概説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	臨 床	学校安全及び緊急処置	本授業では、身体活動の際に生じうる外傷等への救急処置に関する知識等を学修する。具体的には、(1)Basic Life Support(BLS)コースを基本とした心肺停止又は呼吸停止に対する救急処置、(2)切り傷・刺し傷・擦り傷・挫創に対する応急処置、(3)捻挫、骨折、打撲などの外傷予防のテーピング、(4)捻挫、骨折、打撲などの外傷に対する応急処置とする。授業では、動画等の視聴覚教材を積極的に利用するとともに、実践的な授業も含め救急時に対処するための基礎的知識・技術の獲得を目標とする。これら緊急時の対応を学修する中で、学校における安全、危機管理についても理解することを旨とする。	
		心理学的支援法	テーマは心理療法入門である。心理的問題に関する代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法及び要支援者の関係者、組織、地域などへの支援や健康教育について講義する。本授業においては、代表的な心理療法とカウンセリングについて説明できること、動画視聴などの体験を通してコミュニケーションの方法を身に付けること、支援を要する者の関係者などへの支援や健康教育について必要性や実施方法を説明できること、心理学的支援を行う際のプライバシーへの配慮について説明できることを目標とする。	
		心理行動科学特殊講義A	本授業では、現代の心理的な諸問題について、応用心理学(臨床心理学、学校心理学、健康心理学など)の視点から学ぶこととする。現代社会で生じている諸問題(対人関係、発達障害、いじめ・不登校、引きこもり、物質依存、行動嗜癖、スクリーンタイムの影響、生活習慣病、精神疾患など)について、心理学の知見を用いて問題の理解を試みる。また、関連する研究知見を紹介する。さらに、実際の応用場面における取り組みや現状について取り上げる。これらを通して、(1)現代の諸問題について心理学の知見を用いて解釈し説明できるようになること、(2)現代の諸問題に対する心理学の実践応用を理解し説明できるようになることを目標とする。  (オムニバス方式/全15回)  (15 東海林渉/8回) 応用心理学の視点で、物質依存と行動嗜癖、スクリーンタイムの影響、生活習慣病・精神疾患とスティグマについて解説する。  (116 横田晋務/7回) 応用心理学の視点で、対人関係、発達障害、いじめ・不登校、引きこもりについて解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	個 人	知覚・認知心理学	人間の認知機能とその障害について、これらを理解するために提出されてきた様々な理論・モデル・実験データとの関係に基づいて理解する。本授業では、それら理論が日常で生起する知覚的、認知的現象の理解に対しどのように応用されるかを、授業内のデモンストレーションや実験を体験しながら検討する。毎回提出される受講生の振り返りコメントは、教員からのコメントも含め一覽にされ、学生相互に閲覧することによって、理解の幅と深みを広げる。これらを通して、日常の現象・経験を、適切な知覚心理学、認知心理学の理論との関連に基づいて説明できるようになることが目標である。  (オムニバス方式/全15回)  (6 櫻井研三・3 加藤健二/1回)(共同) オリエンテーション資料及びシラバスによるガイダンス。本授業の概要と運営方法について履修上の注意も含めて解説する。  (6 櫻井研三/7回) 感覚の種類と構造、感覚・知覚の基本的特性、視覚、聴覚、化学的感覚・体性感覚・多感覚統合、物体と顔の認知、感覚・知覚の障害について解説する。  (3 加藤健二/7回) 認知の基本的特性、ワーキングメモリ、長期記憶、日常的記憶、注意のメカニズム、知識の表象と構造、問題解決と推論について解説する。	オムニバス方式・共同（一部）
		学習・言語心理学	学習による行動変化の過程と、言語習得の機序及びその影響を取り上げる。具体的には、「経験による行動、知識、技能、態度、信念などの長期的な変化」である「学習」について、古典的条件付け、オペラント条件付け、社会的認知理論、動機付けの学習などを解説する。また、学習の過程や認知システムを支える重要な心的機能である「言語」について、人間の言語発達、言語獲得の生得説と学習説、ヒト言語の特徴、言語と思考などを解説する。本授業においては、自身や世の中で生じている事柄を学習心理学の観点で分析・解釈し説明できること、言語が学習や日常生活に及ぼす影響について言語心理学の観点で説明できるようになることを目標とする。	
		感情・人格心理学	本授業では、私たちが日常的に抱く様々な感情や、「その人らしさ」を表す一つの枠組みであるパーソナリティ(人格)について、心理学における理論や研究知見を学ぶ。感情が生じるメカニズムやその感情をきっかけに生まれる様々な行動、そして自己理解や他者理解の枠組みにもなるパーソナリティについて、日常的な体験と結び付けながら、その理論や測定方法、臨床的問題との関連について、心理学的視点から概観する。授業は、講義形式により進める。本授業においては、感情やパーソナリティに関する理論、行動や適応問題への影響などについて説明できるようになることを目標とする。	
		神経・生理心理学	脳神経系への理解を通して、心身相関の神経基盤に関する系統的で幅広い知識の獲得をテーマとする。講義前半は、脳神経系機能の基礎を学び、神経細胞の電気的興奮や情報伝達、神経の可塑性などの生理学的基礎、脳神経系の機能解剖学的基礎の理解を確立する。後半は、神経系と体の内外の環境との相互作用である、感覚・知覚、運動、記憶、情動、動機付けなどの神経過程の理解に加え、失語や失認などの高次脳機能障害、統合失調症や気分障害・不安障害などの精神疾患の病態と神経機能との関連を学ぶ。本授業においては、脳神経系の構造と機能とともに、様々な心理現象及び精神疾患・障害とを関連づけて理解できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	発達心理学	本授業では「発達の視点に基づく人間理解」をテーマとして、誕生から大人に至るまでの各時期を中心とした人間の一生の心理的変容を学修する。発達とは人が生まれ大人になるまでの心身の構造・機能変化の過程であり、近年では受精から死まで、人間の一生の過程を「発達」としている。特に、子どもが「学び、育つ」ことに深く関わる領域であることから、発達心理学は人の成長や教育に携わる者にとって必須の学問と言えよう。本授業においては、(1)発達段階ごとの心身の構造・諸機能の特徴を分類・説明でき、(2)人の発達過程に応じてどのような働きかけが必要か、学修した知識から実証的・論理的に考察できるようになることを目標とする。	
	意思決定の科学	我々は日常生活において様々な意思決定を行っている。この意思決定はどのようなプロセスで行われているのだろうか。本授業では、我々が自ら決断したとと思っていることが、いかに環境やその他の不確実な事柄から影響を受けているのか、また直感的な判断がいかに非合理的な帰結をもたらすのかについて講義する。ベースとなる理論は社会心理学、認知心理学等となるが、行動経済学等の他分野の知見を網羅しつつ、人の意思決定のメカニズムを考察する。本授業においては、普段我々が行っている「意思決定」のメカニズムを考察して、自己の意思決定を俯瞰的に説明できるようになることを目標とする。	
	個人	スポーツ心理学 I	<p>脳の構造と機能・こころの状態に対して運動・スポーツは深く関わる事が明らかとなっている。運動・スポーツが脳及び心理に与える効果とそのメカニズムを理解することは健康に貢献する。本授業では、運動・スポーツが脳と心理に影響を与えるメカニズムを理解し、学校教育をはじめとするスポーツ指導の現場での効果的な活用ができるようになることを目標とする。高橋が運動・スポーツが脳と心理に影響を与えるメカニズムについて、宍戸がメンタルマネジメントとしての運動の効果的な活用方法について教授する。併せて、本授業は、中学校・高等学校保健体育を教授するための基礎的態度及び知識等を修得することも目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 高橋信二・7 宍戸隆之/1回)(共同) 授業の進め方、成績評価などについてのガイダンス。運動・スポーツと脳と心の関係についてのイントロダクション。</p> <p>(2 高橋信二/7回) 運動・スポーツが脳の構造と機能・心理状態に及ぼす影響について解説する。</p> <p>(7 宍戸隆之/7回) 運動・スポーツの臨床応用としてのスポーツメンタルトレーニングとそれに基づいた運動・スポーツの指導方法を解説する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	個 人	スポーツ心理学Ⅱ	<p>運動・スポーツは、我々の心と深い関わりを持っており、効果的にその指導を行うためには発育発達段階に応じた運動・スポーツと心の関わりを理解することが重要である。本授業では、発育発達段階に応じた運動プログラムの作成、学習者の動機付けを高める指導法、メンタルマネジメントなどができるようになることを目標とする。高橋が運動技術の習得と指導法について、宍戸が実践的な運動・スポーツ指導やメンタルマネジメントについて教授する。併せて、本授業は、中学校・高等学校保健体育を教授するための基礎的態度及び知識等を修得することも目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 高橋信二・7 宍戸隆之/1回)(共同) 授業の進め方、成績評価などについてのガイダンス。運動・スポーツと運動スキルの獲得と心理的コンディショニングについてのイントロダクション。</p> <p>(2 高橋信二/7回) 運動スキルトレーニングの原理、運動スキルの獲得課程について解説する。</p> <p>(7 宍戸隆之/7回) 運動時の心理的コンディショニング、指導者のメンタルマネジメントについて解説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		スポーツ生理学	<p>多くの先進国では身体活動量が不足することに起因する健康問題が顕在化している。本授業では、運動時に起こる生体内での反応を理解し、なぜ運動・スポーツが健康の維持増進に必要であるのかを受講生自身の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、健康の維持増進や競技力向上など目的に応じた運動・トレーニング処方ができるようになることも目指す。併せて、本授業は、中学校・高等学校保健体育を教授するための基礎的態度及び知識等を修得することも目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 坂本譲・2 高橋信二/1回)(共同) 授業の進め方、成績評価などについてのガイダンス。運動が引き起こす生体応答を理解することの重要性を理解する。</p> <p>(2 高橋信二/7回) 運動に対する筋・神経系や呼吸循環器系の応答について概説する。</p> <p>(5 坂本譲/7回) 運動に対する神経系、内分泌系、免疫系の応答とその相互作用について概説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		運動方法学	<p>運動やスポーツを実践する、又は指導するにあたり、運動・動作のメカニズムを理解することは重要である。運動方法学では、まず運動学又は運動方法学が扱う領域について解説する。次いで、その基礎となる人体の構造及び機能、生体力学、運動・動作の分析などを解説する。さらに、具体的な運動・スポーツの種目を想定し、運動・動作の分析方法や指導の際の着眼点について解説する。また、科学技術の発達に伴い運動・動作の分析方法も発達していることから、最新技術の活用例や身近なデバイスの活用例なども紹介する。本授業では、運動やスポーツにおける動きを運動学的手法を用いて客観的に分析、理解できるようになることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
個人	心理行動科学特殊講義B	人間の感覚や知覚の機能を中心に多感覚統合に関連する脳の基本的特性を深く理解することをテーマとする。この講義では、外界と自己身体との位置関係を捉える視覚・聴覚・触覚・前庭覚の統合に関する内部講師の解説と、食行動の基礎となる嗅覚や味覚と他の感覚との統合の問題に関する外部講師の解説により、それらの問題を個別に深く掘り下げる。そのうえで、種々の多感覚統合と関係する機能障害の症例も学び、人間の心理と行動が脳における多感覚の情報処理に深く依存していることを理解する。本授業では、(1)人間の感覚と知覚の基本的特徴の理解、(2)感覚や知覚の統合現象を説明する理論やモデルについてのデータに基づいた説明、(3)統合の結果として生じる様々な認知的事象の心理学的及び脳科学的説明、の3点ができるようになることを目標とする。  (オムニバス方式/全15回)  (6 櫻井研三/8回) 物理刺激の受容器とモダリティI・II、物理刺激による多感覚統合I・II、多感覚統合の脳科学I・II、共感覚、多感覚統合の障害  (118 和田有史/7回) 化学刺激の受容器とモダリティI・II、化学刺激による多感覚統合I・II、化学刺激と物理刺激による多感覚統合I・II、嗅覚と味覚の脳科学	オムニバス方式
	社会・集団・家族心理学	社会心理学及び家族心理学の視点から、他者、集団、家族との関わりのあり方を理解するための基礎知識を身に付ける。そのために、人間行動が社会的な状況によっていかに規定されているか、また個人の行動がいかに社会的な現象をつくり出しているかを、対人行動、集団内過程、集団間関係、家族関係、文化、社会的認知、自己といった観点から実証的な研究知見を交えて講義する。本授業においては、社会行動を理解するための心理学的な知識と理論的枠組みを身に付け、現実の社会行動を社会心理学及び家族心理学の視点から解釈できるようになることを目標とする。	
専門科目	教育・学校心理学	本授業は「教授学習過程に関わる諸事象の教育心理学的理解」をテーマとする。第1回の授業では萩原と平野が共同で授業ガイダンスを行う。その後、萩原が担当する7回の授業において、発達の総論、教授学習過程、教育評価について学び、平野が担当する残り7回の授業において、発達の各論及び関連する諸問題、学習とその障害について学ぶ。本授業においては、上述の学修事項について基本的概念や関連する諸現象を理解し説明できること、生徒が見せる行動の意味について発達の視点から説明ができることを目標とする。なお、本授業は講義形式により実施する。  (オムニバス方式/全15回)  (9 萩原俊彦・10 平野幹雄/1回)(共同) 初回授業でのガイダンス。内容は萩原俊彦・平野幹雄による授業内容の概説と講義の進め方についての説明  (9 萩原俊彦/7回) 発達の理論、パーソナリティ発達の実際、教授学習過程の理解、学級集団の特徴、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、動機付け過程の理解、教育評価とは何か、教育評価の分類、教育評価の実際、教育評価に関わる諸問題  (10 平野幹雄/7回) 社会性発達の実際、知的発達の実際、記憶と学習の理論、発達に関わる諸問題(心理臨床的問題、生徒指導の重要課題と心理臨床的援助技法、障害児の心理と特別支援教育(特に発達障害等に関する基礎的理解))	オムニバス方式・共同(一部)
社会			

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	社 会	ジェンダーの社会学	授業のテーマは「性別を様々な側面から知り、考える」である。私たちの社会を秩序付けている「性別」(gender)について、講義各回にトピック（身体と心理、恋愛、性役割、職業、差別、メディア、統計など）を設定している。受講者はそれらについての「ミニ・レポート」を作成し、提出する。授業はこのミニ・レポートをもとに展開される。ミニ・レポートは翌回の授業において講評と振り返りを行う。本授業においては、性別に関する社会的な研究がどのようなことを問題にしてきたかを、専門的に理解し、かつ獲得した専門知識を日常生活の場面に適用して、性別に関する現象を論ずることができるようになることを目標とする。
		現代社会と心理	人間の心理や行動を正しく理解するためには、個人が置かれた環境の影響を考慮する必要がある。個人を取り巻く環境の最も大きな枠組が社会であり、社会のあり方は様々な経路を通じて直接的・間接的に人々の心理に影響する。この授業では、社会と心理を架橋する様々な社会学・心理学的研究を踏まえつつ、現代日本社会の特徴と心理への影響を解説する。講義内容は、後期近代社会の特徴、集団主義と個人主義、権威主義的パーソナリティ、信頼、不安とメンタルヘルス、排外主義、意見の極端化・分断、ネット炎上、格差と承認、などである。本授業では、様々な心理現象を、現代日本社会の特徴と関連付けて考察・説明できるようになることを目標とする。
		産業・組織心理学	産業・組織心理学は、組織と個人の間接的な関係を人間の具体的な行動や意識レベルで捉え、実証的に検討する学問である。現代の産業社会の構造は、急速な技術革新や国際化、企業組織の統合や合理化など、大きな変貌を遂げつつあり、働く人々の意識や行動、生活場面においても様々な変化が生じている。これらの変化に対応するため、本授業では、仕事への動機付けや人事制度、リーダーシップや集団意思決定などの産業・組織心理学における基本的なトピックに加えて、職場におけるメンタルヘルスの問題などについても教授する。本授業においては、産業・組織分野における様々な現象を心理学的視点から考察できるようになることを目標とする。
		司法・犯罪心理学	犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件に関する基礎知識を得ることを目的として、司法・犯罪分野における心理的支援の現状と問題について講義する。そのために、まず司法・犯罪分野における制度や法律、職種、司法・犯罪関連施設における活動について理解する。次いで、非行や犯罪の原因と更生支援のあり方について理論的な知識を得る。さらに犯罪加害者及び被害者への心理的支援の実際を知るとともに、この分野の心理的支援で用いられている心理的アセスメントの方法や処遇プログラムについて理解する。本授業においては、司法・犯罪分野における制度を理解し、適切な心理的支援を行うための基礎知識を獲得することを目標とする。
		関係行政論	公認心理師の活動に関連する行政施策、法律、制度について講義する。公認心理師は国家資格であり、その職責や義務は公認心理師法によって定められている。公認心理師には関連法規の正しい理解と法に則った活動が求められることは言うまでもない。ここで関連法規とは、公認心理師法だけにとどまらず、国の最高法規である日本国憲法、国会が制定する法律、地方自治体が定める条例、司法機関である最高裁判所規則、さらには国際法に基づき締結される条約など多数存在する。本授業においては、公認心理師の活動を行ううえで必要となる法律や制度等の基礎知識を身に付け、適切な心理的支援を検討できるようになることを目標とする。



授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	社 会	スポーツ社会学	地域コミュニティの変遷やICTの発達ばかりではなく、COVID-19のパンデミックなどによっても社会は急激な変化を続けている。そのように変容する社会において運動・スポーツの位置付けも変化し続け、学校教育や競技スポーツとしてばかりではなく、地域コミュニティの紐帯又は一つの産業としても運動・スポーツは小さくない意義をもっている。本授業では、現代における運動・スポーツの様々な現象を社会的な視点で分析・考察することを通じて、現代社会における運動・スポーツの意義を受講生自身の言葉で説明できることを目標とする。また、今後の運動・スポーツの課題と展望を明らかにする。	
		スポーツマネジメント	スポーツマネジメントは、学校や地域及び職域におけるスポーツ実践や観戦、或いは支援などの多様なスポーツに関わる行動に対し、マネジメントの組織論を中心に論理的に考察する学問である。近年では、対象となる領域が急速に拡充しているため、明確な理論構築が求められている。本授業では、多様なスポーツ活動を実践する人々の生活が豊かになることを志向した運動生活論に依拠しながら、隣接する学問分野の知見も用いて幅広い領域を対象に講義を行う。具体的には、学校体育を中心とした教育活動、地域社会における健康を通じた自己実現と社会連帯を構築、産業界にて利潤と共に社会貢献を志向する其々の集団を組織的に理解することを目標とする。	
		不平等の社会学	現在の日本は「格差社会」と呼ばれ、不平等や貧困の拡大が大きな社会問題となっている。この授業では、現代日本社会における不平等の様々な側面について詳しく検討し、不平等の実態と趨勢、不平等が形成される原因とそのメカニズム、私たちは不平等に対してどのように対応すべきかを学ぶ。具体的には、(1)不平等はなぜ問題か、(2)所得格差、(3)教育と学歴、(4)仕事とキャリア、(5)ジェンダー格差、(6)貧困、(7)日本型生活保障制度の特徴と限界、(8)よりよい社会をどう作るか、等の事項を扱う。これらを踏まえ、日本社会における様々な不平等がなぜ・どのように生じているかを体系的に理解することを目標とする。	
		家族社会学	授業のテーマは現代日本における家族変動である。現代日本における家族の変動について、データに基づいて把握するとともに、それを家族社会学理論に基づいて説明する。毎回の授業では、各自が各回のテーマに沿って「ミニ・レポート」を作成し、提出する。授業はこのミニ・レポートに基づいて展開される。授業では提出されたミニ・レポートについて講評するとともに、家族社会学の代表的な研究を取り上げて説明を加える。本授業においては、現代日本社会における家族のあり方を知るとともに、家族社会学の理論に基づく社会学的想像力を用いて、家族を学問的に捉え直すことができるようになることを目標とする。	
		心理行動科学特殊講義C	この授業では、社会・集団に関する最新の研究知見のうち、健康の問題を学ぶ。健康は、個人の特性や行動だけで決まるものではなく、学歴、所得、職業、人とのつながりといった社会的状況の影響を受ける。さらに、国や地域の政策や文化、景気の動向や所得格差の程度といった社会全体の特性も健康に影響する。その結果として、社会経済的な格差が人々の健康を左右する「健康格差」が生じる。この授業では健康格差をもたらす「健康の社会的決定要因」に注目し、どのような要因がいかなるメカニズムで健康に影響するのか、健康格差を縮小し人々の健康を改善するために何が必要かを理解・説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目	公認心理師に関する科目	公認心理師の職責	オムニバス方式
	心理演習	オムニバス方式	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心理行動科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
公認心理師に関する科目	心理実習	<p>公認心理師の主要5分野のうち3分野(保健医療、福祉、司法・犯罪)の施設における見学実習や実習前の座学、実習後の振り返り(80時間以上)を通して、公認心理師の業務の実際を知り、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について学ぶ。本授業においては、公認心理師の業務の実際及び業務の基本となるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について見学実習を通して説明できるようになることを目標とする。</p> <p>(14 金井嘉宏・15 東海林渉・10 平野幹雄・17 白倉瞳/15回)(共同) 総合病院や精神科単科病院などの保健医療分野、県精神保健福祉センターや児童相談所などの福祉施設、少年鑑別所や刑務所などの司法・犯罪分野の実習施設について、実習の前後に講義や調べ学習を行うとともに、各施設への引率を共同で担当する。</p>	共同	
	免許および資格関係科目	体育実技Ⅰ（陸上競技・水泳）	<p>本授業では、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育)に基づき、「陸上競技」と「水泳」について、専門的な実技を実施する。「陸上競技」では、走種目・跳躍種目・投擲種目の技能習得方法や改善方法等を実習する。「水泳」では、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの基本技術を習得し、200m個人メドレーを完泳できるようになることを目指す。両種目において、受講生はパフォーマンスを向上させることで指導場面において模範を示せるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(122 石井裕明 ・ 123 渡辺圭佑/1回)(共同) 授業全体のガイダンス</p> <p>(123 渡辺圭佑/7回) 短距離走・リレー、長距離走又はハードル走、走り幅跳び又は走り高跳び技能の指導</p> <p>(122 石井裕明/7回) クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ技能の指導</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		教員免許状の教科に関する科目	体育実技Ⅱ（体づくり運動・器械運動・ダンス）	<p>本授業では、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育)に基づき、「体づくり運動」、「器械運動」及び「ダンス」の3領域について専門的な実技を行う。「体づくり運動」では、運動を正しく行い、体力を高める理論と方法を理解することを目標とする。「器械運動」では、マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動のスキル習得方法について実習し、パフォーマンスを向上させることで指導場面において模範を示せるようになることを目標とする。「ダンス」では、ダンスの基本知識・技能の習得、リズムやイメージをもとにした身体表現能力の向上を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 高橋信二 ・ 16 吉田雄大/5回)(共同) 授業全体のガイダンス、体づくり運動(体ほぐしの運動、体力を高める運動)技能の指導</p> <p>(124 加畑碧/10回) 器械運動(マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動)の指導、ダンス(創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス)技能の指導</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目	教員免許状の教科に関する科目	<p>体育実技Ⅲ（武道）</p> <p>本授業では、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育)に基づき、「柔道」及び「剣道」について、専門的な実技を実施する。「柔道」では、礼法、基本動作、投げ技、固め技等の基本的な技能を習得し、簡易な攻防や乱取りを安全に行うことができるようになることを目標とする。「剣道」では、礼法、基本動作、基本的な打突の技能を習得し、簡易なかかり稽古を安全に行うことができるようになることを目標とする。両種目において、受講生はパフォーマンスを向上させることで指導場面において模範を示せるようになることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(125 井上雅勝 ・ 126 古内孝明/1回)(共同) 授業全体のガイダンス</p> <p>(125 井上雅勝/7回) 剣道技能の指導</p> <p>(126 古内孝明/7回) 柔道技能の指導</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	免許および資格関係科目	<p>体育実技Ⅳ（球技）</p> <p>本授業では、中学校・高等学校学習指導要領(保健体育)に基づき、「ゴール型」種目として「バスケットボール」、「ネット型」種目として「バレーボール」、「ベースボール型」種目として「ソフトボール」について、専門的な実技を実施する。各種目において、個人の基礎的な技能と基礎的な個人、集団戦術の習得及び指導方法を学習する。それぞれの種目において、受講生はパフォーマンスを向上させることで指導場面において模範を示せるようになることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 穴戸隆之/5回) 授業全体のガイダンス、バレーボール技能の指導</p> <p>(127 小島優子/5回) バスケットボール技能の指導</p> <p>(128 藤本敏彦/5回) ソフトボール技能の指導</p>	オムニバス方式
教職等に関する科目	教育基礎論	<p>教育に関連する諸概念を的確に踏まえるとともに、教育に関する理念や思想及びその歴史について、学校教育の歴史的な成り立ちを含めて概観することがテーマである。また、教育を支える諸要因とそれら相互の関係についての理解と確認を図る。授業は講義形式で進める。なお、本授業においては、(1)教育の本質及び目標、教育を成り立たせる諸要素とそれらの関係を理解できること、(2)子どもの学習や人間形成、教育と社会との関わりに関する基本的な考え方を理解できること、(3)近代における教育の歴史と教育に関する思想の学習を通じて、社会における教育の意味と近代学校教育の役割等を理解できることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	現代教職論	本授業では、学校教育における教員への期待を踏まえ、教職の意義や教員に求められる役割や資質能力及び教員の職務について理解し、併せて自らの教員としての適性を判断する。なお、本授業は講義形式で実施する。具体的には、(1)生徒の教育を担う学校や教職への期待や社会的な意義を理解すること、(2)現代社会における教員の役割と教員に求められる資質能力を学び続ける教員のあり方と関連付けながら理解すること、(3)教員の服務を含めた職務内容の全体を理解すること、(4)チーム学校のもとで、教職員や学校内外の専門家との連携・協力のあり方の必要性を理解することを目標とする。	
	教育の制度と経営	教育と学校、人の発達に関する基礎的な知識を習得するとともに、教育について検討するための態度を養うことを目的とする。講義を通じて、(1)学校教育を中心とした意図的・計画的な公教育制度に関わる意義・理念について、法制度及び現在に至る制度の変遷等について学び、説明することができる、(2)現代の我が国の学校教育制度について、他国の制度及び地域を含む学校教育外の領域との連携・協働に関わる取り組み、学校安全に関わる課題を踏まえつつ説明することができる、(3)学校教育を巡る諸問題と諸課題について、上記目標及び現在の教育改革動向を含め、自らの考えをまとめ発表することができる、の3点を目標とする。	
	特別支援教育論	本授業では特別支援教育の概要について発達障害や知的障害などを取り上げ、各々の障害特性について概説する。加えて、それらへの教育課程や支援の方法について学ぶと同時に、障害はないが特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の困難とその対応についても学ぶ。本授業を通じて、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、教育課程及び支援のあり方について理解すること、障害はないが特別な教育的ニーズを伴う幼児、児童及び生徒の学習面、生活面での困難と支援のあり方について理解することを目標とする。本授業は講義形式で行う。	
	教育課程論	本授業では、教職を目指すにあたって理解しておかななくてはならない学校における重要な教育の計画である教育課程について概説する。まず教育課程を構成する要素など教育課程に関わる基本的な事項について理解し、次に教育課程の基準である学習指導要領の変遷を中心に時代・社会を背景とした教育内容等の変化を確認する。併せて、現行の学習指導要領の基本的な考え方や具体的な教育内容について理解する。最後に、教育課程編成に関わって、その原理、方法・手順と評価(カリキュラム・マネジメントを含む)のあり方をみていく。これらにより、教育課程編成のために必要とされる基本的な力を身に付けることを目標とする。	
	道徳教育の理論と方法	本授業は、社会的な期待を踏まえ、道徳教育の意義と可能性及び困難さについて合理的・実践的に考察するとともに、「特別の教科道徳」の主體的・対話的で深い学習を指導できる実践力の基礎を身に付ける。授業は講義形式で進める。なお、本授業においては、(1)道徳の概念について、その概要を体系的にまとめることができる、(2)道徳教育の意義や目的、構造等、現代の学校教育における道徳教育の基本的特性を説明することができる、(3)「特別の教科道徳」の授業その他の道徳教育の具体的な活動について、実践的な計画を立てることができるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	<p>本授業では、教育課程の一領域である特別活動(学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等)及び総合的な学習の時間の指導法について体系的に学ぶ。本授業は講義形式で進める。なお、本授業においては、(1)特別活動の教育的意義、目標と内容及び指導上の留意点について説明することができる、(2)学校教育の今日的課題との関わりから、特別活動における学校現場に即した具体的な実践例を研究することができる、(3)総合的な学習の時間の教育的意義、目標と内容について理解し、説明することができる、(4)指導計画の作成、指導の評価ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(129 及川芙美子/10回) オリエンテーション、特別活動の目標と特質、特別活動と人間関係作り、学級活動・ホームルーム活動(学級作り・学級指導の目標と指導計画、指導案の作成)、話し合い活動の指導法、生徒会活動、部活動、学校行事等について講義する。</p> <p>(64 稲垣忠/5回) 教育課程上の総合的な学習の役割、主体的・対話的で深い学びを促す課題設定と教材研究、探求過程における学習を支援する手立てと評価、事例に基づく単元計画の作成と評価、年間計画・教材等との連携の方法(カリキュラム・マネジメント)等について講義する。</p>	オムニバス方式
	教育の方法と技術	<p>本授業では、授業設計に関わる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT(情報通信技術)の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。授業は講義形式で進める。本授業においては、(1)これからの社会を生きる子どもが身に付けるべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる、(2)学習目標の設定、評価問題、教材研究、学習指導案の作成までの基本的な授業設計を理解し、実際に設計できる、(3)学習者を支援するための基本的な指導技術を身に付け、学習者と接する際に活用することができるようになることを目標とする。</p>	
	ICT活用の理論と方法	<p>教育現場におけるICT(情報通信技術)の活用について、歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解することがテーマである。授業における児童生徒及び教員によるICT活用の他、授業準備、学習評価に関する活用、校務への活用や教育データの活用を取り上げる。また、情報活用能力について、その構成要素や具体的な指導法、教育課程上の位置付けを解説する。本授業は、講義形式で行いながら、体験的に学修する機会も設ける。本授業では、(1)教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する、(2)ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する、(3)情報活用能力を育成する意義及び育成方法を身に付けることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	生徒指導・進路指導の理論と方法	<p>本授業の目的は、生徒指導及び進路指導の理論と方法について理解することである。本授業は講義形式で行う。本授業では、生徒指導及び進路指導・キャリア教育の位置付けや意義、役割等について解説する。また、いじめや暴力行為等の諸課題について講義し、生徒が学校生活や社会生活に適応し、自己実現を図るために必要な生徒指導上の関わりやキャリア発達の支援の方法について学ぶ。本授業を通じて、(1)生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義と原理、(2)生徒指導及び進路指導・キャリア教育の進め方、(3)生徒指導上、進路指導上の課題と対応、のそれぞれについて理解し説明できるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(66 清水貴裕/8回) オリエンテーション・生徒指導とは、生徒指導の位置付け・進路指導との関わり、生徒指導における生徒理解と自尊感情の育成、問題行動と規範意識の醸成、いじめ問題への取り組み、不登校と自己存在感の育成、生徒指導の運営と管理、学校・家庭・地域の連携</p> <p>(130 中村修/7回) 進路指導・キャリア教育の意義と役割、進路選択の心理(キャリア発達)、進路選択の心理(職業的興味と適性)、社会の変化と進路選択、進路指導の方法と実際、進路指導の運営・管理、まとめと今後の学習についての展望</p>	オムニバス方式
	教育相談の理論と方法	<p>本授業の目的は、教育相談及びカウンセリングの理論と方法について理解することである。本授業は講義形式で行う。本授業では、教育相談の位置付けや目的について述べたうえで、基本的なカウンセリング理論についての講義を行う。また、生徒が抱えるストレスや抑うつ・不安といった情緒面の問題、発達障害や不登校などの理解の仕方と援助方法について解説する。本授業を通じて(1)教育相談とカウンセリングの目的と現状を説明できるようになること、(2)カウンセリングの基礎的な知識や技術を身に付けること、(3)教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携について説明できるようになることを目標とする。</p>	
	保健体育科教育法(概論)	<p>本授業では、学習指導要領解説保健体育編に基づきながら、「体育」の7つの運動に関する領域(体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス)、知識に関する領域である「体育理論」の内容、さらに「保健」の4つの項目で取り上げられる内容について解説する。中学校及び高等学校の保健体育教員に求められる保健体育の学習・指導に関する知識と指導技術及び学習評価の基礎を身に付ける。中学校、高等学校において、豊かな保健体育教育を行うために必要となる知識を増やし、「主体的・対話的で深い学び」を促すための指導技能を身に付けることを目標とする。本授業は講義形式で行う。</p>	
	保健体育科教育法(理論)	<p>本授業では、「保健体育科教育法(概論)」において身に付けた保健体育指導の基礎的知識を土台として、学習指導要領解説保健体育編に基づきながら、評価規準(学習目標)、指導計画、指導過程、評価方法を確定する手順を概説する。中学校及び高等学校の保健体育教員に求められる保健体育の学習・指導に関する専門的な知識と実践的指導技術及び学習評価の基礎を学ぶ。保健体育授業の学習指導案を作成できるようになるとともに、担当教員による模擬授業の生徒役としての体験を通して基本的事項を学び、ICTの活用や効果的なアクティブラーニングの在り方等の授業実践力を身に付けることを目標とする。本授業は講義形式で行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部心理行動科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	保健体育科教育法(実践)	本授業では、「保健体育科教育法(概論)」及び「保健体育科教育法(理論)」の内容を踏まえ、実践的な保健体育教育の指導技術について解説する。「保健体育科教育法(理論)」で提示されたモデル授業と模擬授業を応用し、少人数のグループによる模擬授業の立案、準備及び学生相互の模擬授業の実践を行い、クラス全体による省察を通して、より効果的な授業を行うための方法と評価規準(学習目標)、指導計画、指導過程、評価方法について、体験的に学んでいく。特に、授業の立案においては、授業の目標を達成するための教材開発の視点に立ち、新たな授業方法を生み出せる能力を培うことを目標とする。本授業は講義形式で行う。	
	保健体育科教育法(応用)	本授業では、「保健体育科教育法(実践)」で教材開発した内容とその学習指導計画を活用し、小学校から高等学校までの12年間を見通して、各種の運動の基礎を培う時期、多くの領域の学習を経験させる時期等、発育発達の段階に応じた系統性を踏まえた指導内容を学ぶ。中学校の3年間及び高等学校の3年間の見通しをもった年間指導計画の作成とその指導計画による評価、改善等を重視した「カリキュラム・マネジメント」を実現する観点及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善ができるようになることを目標とする。本授業は、受講者同士の議論や授業改善案の策定を通して、受講者同士が協同的に知識・技能を高める手法で行う。	
	教育実習Ⅰ	本授業は、中学校及び高等学校教諭免許状取得希望者を対象とする。中・高等学校現場での指導実習を通して生徒理解を深めるとともに、中・高等学校の発達段階にある生徒を対象とした授業に関する実践的指導力を培う。学習指導はもちろん、学級経営や特別活動の取り組みについての理解を深めることで、教師の職務と責任を理解し、教職を目指す意欲と態度を育成する。本授業は、教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に教師としての使命感と責任感を持って生徒に接する姿勢を持てるようになることを達成目標とする。本授業は、実習形式に加え、講義、演習形式による事前指導、事後指導からなる。	
	教育実習Ⅱ	本授業は、中学校教諭免許状取得希望者を対象とする。学習指導のみならず学級経営や特別活動などの教科外指導の理解を深め、自らの教員としての適性を考えながら教職を目指す意欲と態度を育成していく。これにより、中学校現場での直接的な指導実習を通して、「教育実習Ⅰ」で身に付けた力をさらに高めていく。本授業は、教員の使命や職務に関する理解と深い生徒理解に基づき、教科指導及び教科外指導など様々な場面で適切に生徒と関わりながら、教育を実践できる中学校教員としての総合的な指導力の基盤を養うことを達成目標とする。本授業は、実習形式に加え、講義、演習形式による事前指導、事後指導からなる。	
	教職実践演習(中・高)	教職課程の履修を通じて身に付けた基本的な資質能力((1)教員としての使命感や責任感・教育的愛情、(2)生徒理解力や学級経営力、(3)教科学習の指導力、(4)社会性や対人関係力)のありようについて反省的に認識するとともに、教員になるうえでの自身の課題を自覚し、不足している知識や技能等を適宜補い、その定着を図ることを目標とする。このため本授業では、子ども理解及び学級経営、学習指導、安全教育をテーマとし、具体的な指導事例の検討や学習指導案の作成及び模擬授業の実施、自身の実践的指導力を統合し、かつ教員として最小限必要なレベルにまで高める。本授業は演習形式で行う。	



授 業 科 目 の 概 要			
（人間科学部心理行動科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許 および 資格 関係 科目	教職 等 に 関 する 科 目	介護体験実習	本授業は、中学校教諭免許状の取得を目指す者が、特別支援学校及び社会福祉施設における介護等の体験を通じて、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることを狙いとする。講義形式にて事前指導を行った後、合計7日間の実習に取り組む。本授業においては、(1)教職を志望する者が自主的・自発的な姿勢を高めながら、意欲的に体験実習に取り組み、その結果一人一人の人間のかげがえのなさや、人間同士の支え合いの大切さについて深く理解すること、またそれとともに、(2)自分と他の人の幸せを願う心を育むことを目標とする。

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学)

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東北学院大学				東北学院大学				
文学部		2年次		文学部		2年次		
英文学科	180	6	762	英文学科	<u>150</u>	<u>0</u>	<u>606</u>	定員変更(△30) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		12				<u>3</u>		
総合人文学科	50	3年次	204	総合人文学科	<u>60</u>	3年次	<u>242</u>	定員変更(10) 編入学定員変更
		2				1		
		2年次				2年次		
歴史学科	170	2	692	歴史学科	170	<u>0</u>	<u>682</u>	編入学定員変更
		3年次				3年次		
		3				<u>1</u>		
教育学科	50	-	200	教育学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更(20)
経済学部		2年次		経済学部		2年次		
経済学科	440	6	1,796	経済学科	<u>430</u>	<u>0</u>	<u>1,720</u>	定員変更(△10) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		9				<u>0</u>		
		2年次				2年次		
共生社会経済学科	187	4	766	共生社会経済学科	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止
		3年次				3年次		
		3						
経営学部		2年次		経営学部		2年次		
経営学科	341	6	1,398	経営学科	341	<u>0</u>	<u>1,368</u>	編入学定員変更
		3年次				3年次		
		8				<u>2</u>		
法学部		2年次		法学部		2年次		
法律学科	358	4	1,456	法律学科	<u>355</u>	<u>0</u>	<u>1,420</u>	定員変更(△3) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		6				<u>0</u>		
工学部		3年次		工学部		3年次		
機械知能工学科	110	6	452	機械知能工学科	<u>115</u>	<u>0</u>	<u>460</u>	定員変更(5) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		6				<u>0</u>		
電気電子工学科	110	6	452	電気電子工学科	<u>130</u>	<u>0</u>	<u>520</u>	定員変更(20) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		5				<u>0</u>		
環境建設工学科	110	5	450	環境建設工学科	<u>115</u>	<u>0</u>	<u>460</u>	定員変更(5) 編入学定員変更
		3年次				3年次		
		5				<u>0</u>		
情報基盤工学科	110	5	450	情報基盤工学科	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学)

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
教養学部		2年次						
人間科学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
言語文化学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
情報科学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
地域構想学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
								地域総合学部
								学部の設置(届出)
								地域コミュニティ学科
								150 - 600
								政策デザイン学科
								145 - 580
								情報学部
								学部の設置(届出)
								データサイエンス学科
								190 - 760
								人間科学部
								学部の設置(届出)
								心理行動科学科
								165 - 660
								国際学部
								学部の設置(届出)
								国際教養学科
								130 - 520
計	2,656	2年次 36 3年次 73	10,878	計	2,716	2年次 0 3年次 1	10,878	

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学院)

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東北学院大学大学院				東北学院大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
英語英文学専攻(M)	10	-	20	英語英文学専攻(M)	10	-	20	
英語英文学専攻(D)	3	-	9	英語英文学専攻(D)	3	-	9	
ヨーロッパ文化史専攻(M)	5	-	10	ヨーロッパ文化史専攻(M)	5	-	10	
ヨーロッパ文化史専攻(D)	2	-	6	ヨーロッパ文化史専攻(D)	2	-	6	
アジア文化史専攻(M)	5	-	10	アジア文化史専攻(M)	5	-	10	
アジア文化史専攻(D)	2	-	6	アジア文化史専攻(D)	2	-	6	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	8	-	16	経済学専攻(M)	8	-	16	
経済学専攻(D)	2	-	6	経済学専攻(D)	2	-	6	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	8	-	16	経営学専攻(M)	8	-	16	
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	10	-	20	法律学専攻(M)	10	-	20	
法律学専攻(D)	2	-	6	法律学専攻(D)	2	-	6	
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	8	-	16	機械工学専攻(M)	8	-	16	
機械工学専攻(D)	2	-	6	機械工学専攻(D)	2	-	6	
電気工学専攻(M)	8	-	16	電気工学専攻(M)	8	-	16	
電気工学専攻(D)	2	-	6	電気工学専攻(D)	2	-	6	
電子工学専攻(M)	8	-	16	電子工学専攻(M)	8	-	16	
電子工学専攻(D)	2	-	6	電子工学専攻(D)	2	-	6	
環境建設工学専攻(M)	8	-	16	環境建設工学専攻(M)	8	-	16	
環境建設工学専攻(D)	2	-	6	環境建設工学専攻(D)	2	-	6	
人間情報学研究科				人間情報学研究科				
人間情報学専攻(M)	8	-	16	人間情報学専攻(M)	8	-	16	
人間情報学専攻(D)	3	-	9	人間情報学専攻(D)	3	-	9	
計	108	0	238	計	108	0	238	